

講 義 要 項

早稲田大学大学暦

講 義 内 容

役付教職員一覧

クラス担任者一覧

教 員 一 覧

建物・号館案内

構 内 案 内 図

1 9 9 1

早 稲 田 大 学 人 間 科 学 部

1991（平成3）年度 早稲田大学大学暦

区 分			期 日	
入 学 式		学 部	1991（平成3）年 4月1日（月）	
		大学院	4月2日（火）	
前 期	授 業 開 始	学 部	4月2日（火）	
		大学院	4月3日（水）	
	授 業 終 了		7月20日（土）	
	夏 季 休 業	自	7月21日（日）	
		至	9月15日（日）	
	後 期	授 業 開 始		9月17日（火）
創 立 記 念 日		10月21日（月）		
冬 季 休 業		自	12月17日（火）	
		至	1992（平成4）年 1月7日（火）	
授 業 終 了		2月6日（木）		
春 季 休 業		自	2月7日（金）	
		至	3月31日（火）	
授 業 期 間			33 週	
学部卒業式，専門学校 卒業式および大学院学位 授与式			3月25日（水）	

目 次

講 義 内 容

一 般 教 育 科 目	教 養 演 習	1
	人 文 科 学 系	2
	社 会 科 学 系	4
	自 然 科 学 系	6
外 国 語 科 目	(随 意 科 目)	9
保 健 体 育 科 目		10
基 礎 教 育 科 目		11
専 門 教 育 科 目		13
(各学科共通 必修)		
専 門 教 育 科 目	人 間 基 礎 科 学 科	15
	人 間 健 康 科 学 科	30
	ス ポ ー ツ 科 学 科	44
専 門 教 育 科 目		77
(各学科共通 選択)		
寄 附 講 座	(随 意 科 目)	84
役付教職員一覧		86
クラス担任者一覧		87
教 員 一 覧		89
建物・号館案内		98
構 内 案 内 図		99

一 般 教 育 科 目

教 養 演 習 (必修) 4 単位

教養演習は、大学における勉学への導入的役割を果たすものと期待されており、演習参加者が勉学上の関心を主体的に充足する場であると同時に、クラスとして機能する、1年次に履修する3学科共通の科目である。

クラスは約30名編成20クラスで、3学科混成である。それぞれのクラスは入学手続後決定し、掲示する。

クラス	担 当 者	専攻分野
1	根 建 金 男	行動学
2	浅 井 邦 二	心理学的測定
3	池 岡 義 孝	家族社会学
4	佐々木 正 人	認知心理学
5	矢 野 敬 生	社会人類学
6	山 内 兄 人	組織学
7	吉 村 作 治	考古学
8	菅 野 純	カウンセリング
9	蔵 持 不三也	文化人類学
10	佐 古 順 彦	環境心理学
11	田 中 純 蔵	英米文学
12	谷 川 章 雄	文化人類学
13	吉 村 正	体育学
14	梅 澤 宣 雄	体育経営論
15	太 田 富貴雄	栄養学
16	児 玉 昌 久	スポーツ心理学
17	鈴 木 秀 次	バイオメカニクス
18	町 田 和 彦	環境保健学
19	村 岡 功	運動生理学
20	山 崎 勝 男	精神生理学

(人 文 科 学 系)

教 育 学 4単位

林 幹 夫

教育はだれもが経験する、ごく身近なできごとである。人間形成行為としての教育およびそれに関わる諸条件を客観的＝科学的に解明し、理論化しようとする学問である教育学も、それゆえわれわれの日常と無縁のもの、実践行為からかけ離れたものであってはならないであろう。この認識にたつて、ここでは今日のわが国における教育現象を、あるいは歴史的・社会的に、あるいは諸外国との対比において見据えながら、「教育」についての哲学的・思想的・理論的な考察を行う。

参考文献等については適時指示する。

宗 教 学 4単位

安 中 隆 徳

教団内部での宗教理解が、神学（仏教では宗乗学）であった。これに対して宗教学は、諸宗教に関心を持ち、種々の宗教性の構造と可能性を理解しようとする。近代・現代に至るにつれて、異なった文化・宗教を理解する重要性が意識されてきて、その新たなニーズが、宗教学という学問を生み出したのである。

確かに現代世界は、西欧近代の合理主義を、普遍的に導入している。しかしそれ故にこそ、諸文化の根底にある、宗教がはぐくんだ主体に関わる思惟（人間観・世界観）への理解が、いよいよ必要になってきているのではないだろうか。

人間の諸行動の根底にある宗教の営みに、われわれは宗教学によって照明を当ててみたい。

哲 学 4単位

速 川 治 郎

「哲学は何であるか」という問いに対して、その問いがまさに哲学であると答える人がいる。それは一応答えになってはいるが、哲学の内容を十分に語ったことにはならない。それで十分ならば、「哲学は何であるか」「哲学は何であるか」と繰り返しているならば、哲学を語ったことになる。私の答えは講義の中で述べよう。ところで哲学の中味を語る場合、必ず誰かの哲学にぶつかる。プラトン、アリストテレス、キケロ、デカルト、カント、ヘーゲル等々の哲学を基にして、われわれは語ることになるからである。哲学者を挙げないで自分ひとりで独創的なものを考えたつもりでも、たいてい哲学史上の哲学者がそれを語っている。本年度はヨーロッパ哲学の中で、現代のわれわれが関心を持つべき哲学を選んで論じてみたい。教科書は使わない。ただし後期の終わりには教科書として拙著『フランクフルト学派の論理』（世界書院）を使う。参考書として、とりあえずH・グロックナーの訳書『ヨーロッパの哲学』上、中、

下（早稲田大学出版部）を挙げておく。

倫 理 学 4単位

大 崎 博

科学はものごとがどのようにして (how) そうなっているかを問うことはできても、何のために (why) を問題にすることはしないと言われる。そもそも人間が人びとの間で生れ、死ぬこと、生命、自然、社会の意味など解っているつもりで、かならずしも明らかでないことが多い。この講義では、そうした世界と人間の根本にかかわる問題ならびに社会における人間関係の問題を、主としてフランスでの論議を軸にして考えていくことにしたい。

文 学 4単位

菊 地 弘

日本近代の作品を素材として、文学のさまざまな問題を考察したい。本年は島崎藤村、夏目漱石、有島武郎、芥川龍之介、梶井基次郎などの作品を具体的に分析しながら、表現世界と現実との関係性、当代、後代の作品との関連などにもふれてみたい。テキストはそのつど指示するので用意すること。

比較文明論 4単位

吉 村 作 治

文明を論ずる時まず問題になるのは文化との関係である。本講座では文明の中でも古代文明を論ずることにより、文化との対比を行いたい。古代文明は中国を中心とした東アジアの文明とエジプト、メソポタミア、ペルシア、ギリシア、ローマといった西アジアの文明がユーラシア大陸の両端に存在し、古代社会を形成していた。本年はこの二大文明圏の交流を中心に、その周辺に及ぼした影響を考えてみたい。文明の伝播は文物、遺構等目で見ないと理解しづらい点も多いので、映像を使い講義を進めていく予定である。又西アジア文明については私の専門がエジプト文明にあるため、エジプトが中心となり、エジプトに於ける発掘等も講義の中で触れる。

映 像 論 4単位

岩 本 憲 児

写真が誕生した19世紀前半から、コンピュータ・グラフィックスの現代まで、映像メディアの変遷をながめながら、映像の特質を考えてみたい。写真・映画・テレビ・CG等、映像メディアが私たちにもたらしたものは何か？映像は20世紀の芸術や伝達のあり方をどのように変化させたのか？それは私たちの視点や思考をどのように新しくしたのか？講義の中心になるのは、映像メディアと既成芸術との関係、映画理論史上の主要な論点等であるが、視覚文化や複製文化、コミュニケーションやドキュメンタリー、映像とプロパガンダの問題等、社会的な広がりも含めたい。

教科書は使わないが、スライド・フィルム・ビデオ・レーザーディスク等、映像資料をできるだけたくさん使う予定。参考書は、『映画の教科書』（フィルムアート社）

(社 会 科 学 系)

経 済 学 4単位

古 賀 勝次郎

経済のグローバル化ということが頻りにいわれている。日本は今やアメリカに次ぐ経済大国として、世界経済における責任ある行動が求められている。本講義では、グローバル化する世界経済の分析と、それへの日本の対応を中心テーマとしながら次の順序で講義をすすめる。

1. 経済学とは何か。
2. 経済学の成立と展開
3. 現代社会における経済の仕組み
4. 日本経済の現状と問題点
5. アメリカ経済と日米経済摩擦
6. EC（欧州共同体）の歴史と展望
7. アジア経済と日本
8. 社会主義圏および第三世界の経済分析
9. 国際金融、特に国際通貨制度
10. 世界の中の日本経済

《主な参考文献》

○ McCall, B., The World of Economics（英潮社新社）

○ 拙著『ハイエクと新自由主義』（行人社）

○ 拙著『東西思想の比較』（成文堂）

法 学（憲法を含む） 4単位

今 橋 盛 勝

現代社会と法の関係を経済学から説明しようとする教科書を中心に解説する。法社会学、地裁裁判についても検討したい。

〔教科書〕：田中成明『現代日本法の構図』筑摩書房

日 本 文 化 史 4単位

谷 川 章 雄

日本人にとって日本文化を知ることが自己を認識する上で不可欠な作業である。しかし、人間が自分の文化を知ろうとすることは決して簡単なことではない。むしろ、異文化に属する人間の方がその文化を鋭く観察している場合がある。そこで、本講義では「外国人の見た日本文化」がどのようなものであったかを古代から歴史的にたどりつつ、日本文化史を外からながめてみることにする。

すなわち、日本人が日本文化を見る視点を問い直してみようというのが本講義のね

らいである。

社会変動論 4単位

嵯峨座 晴 夫

社会変動とは、一般的にいて、社会の活動水準あるいは社会構造が変化することを意味している。このような変化を対象として、その変動パターン、原因、帰結などについて、社会学を中心として関連諸科学においていろいろと研究が進められてきた。例えば、社会進化論、発展段階論、近代化論などがあげられる。ここでは、まず第一に、これらの社会変動の基礎理論について概説する。

第二に、現代の主要潮流の一つである近代化について、日本社会を例にとりながら具体的な考察を試みる。さらに、この近代化がいわゆる第三世界にも波及する可能性があるかどうかについても検討する。

第三に、望ましい社会変動を意図的に引きおこすことを目的とした社会計画あるいは社会開発の意義と問題点についても論述する。

テキストとして浜口・嵯峨座編『社会学講義』早大出版部を使用する。

ヨーロッパ文化概論 4単位

蔵 持 不三也

貿易や文化面での国際協調が声高に叫ばれている今日、我が国の主要なパートナーであるヨーロッパに対する理解はなお不十分なものとどまっている。たとえば、肉食文化や合理主義といった皮相のかつ伝統的な見方である。本講ではヨーロッパ人および彼らの文化のルーツを先史時代まで遡って紹介し、さらにその今日の様相を文化人類学・民族学的観点から追求して、旧来のヨーロッパ観を再検討したい。なお、講義ではできる限り多くのスライドやビデオを用いて受講者の理解に供したいと考えている。教科書あり。

教育法 4単位

今 橋 盛 勝

「教育と人権と法」のテーマで行う。学校教育は子ども・生徒が「人間として扱われながら学習・発達する」ことを保障するために存在するという基本的視点から、いじめ・体罰・校則・内申書・学校事故・スポーツ部活等の問題、紛争、裁判を検討したい。調査の方法、法社会的分析も紹介する。

とくに、多くの死亡・傷害事故を生み出している学校事故・スポーツ部活の教育法的検討をする。学校・教師の民事・刑事・行政責任についての理論と裁判例を紹介する。

90年代の日本では、子ども・生徒の人権が親の教育権・責任・学校関与権に連らなっていくと思われる。欧米の教育法にも触れたい。もう一つは、地域・住民の教育力、教育参加が問題になろう。社会体育・スポーツ少年団を中心に考えてみたい。

東大・京大大学院での「教育法」の講義の経験をふまえて、議論できる講義、学生

諸君が考える講義にしたい。

〔教科書〕：今橋盛勝『学校教育紛争と法』（エイデル研究所）

〔参考書〕：今橋他『スポーツ部活』（草土文化）、NHK取材班・今橋『体罰』（NHK出版局）

文化人類学 4単位

（前期）寒川恒夫

（後期）谷川章雄

世界の民族と文化について研究する文化人類学は一世紀余におよぶ歴史をもっている。本年度前期では最初、研究史をあつかう。つまり、文化人類学が展開してきた諸理論モデルを反省することで、この学問領域の広がりを確認する。次に、地域を東アジア・東南アジアに限定して、そこに展開する民族文化について論じる。（寒川）

後期は主として日本の民俗文化をとり上げる。まず、日本の民俗文化研究の歴史と方法論を概観する。次にいくつかの地域の民俗誌をとり上げ、それらを比較検討しながら、日本の民俗文化の多面性、重層性を明らかにしてゆきたい。（谷川）

（自然科学系）

物理学 4単位

千葉明夫

前期では、力学の問題を中心に講義を行う。ニュートンは我々の身近にある運動と、大宇宙で起っている運動とが同じ簡単な基本法則にもとづいていることを看破し、運動の法則を発見した。我々は彼の運動の法則の確立のなかに近代科学的思考法の原点を見いだすことができる。講義では力学的エネルギーについても述べる。

後期では熱力学をあつかう。人類は原始の時代より火を熱源として食物を焼いたり煮たり、また体や水等を暖めるのに用いてきた。言い換えれば、古代より人類はいろいろな熱現象を利用して繁栄してきた。熱力学は熱現象を現象論的な立場で探究する科学で、物質内部のエネルギー状態の変化を知るには温度、熱、内部エネルギー、エントロピーなどの概念を確立する必要があった。熱力学を学ぶことにより、熱と温度の区別やエントロピーの概念が明確になり、熱力学の法則のもつ普遍性を知ることができる。

化学 4単位

宇佐美昭次

人間と化学の関わり合いを中心に化学の基礎から話をする。前期は、化学の法則（原子説）、エネルギーの化学（熱力学と生体エネルギー）、環境の化学について紹介する。後期は、身のまわりの衣・食・住に関わる有機化合物を取上げ、それらの化学的性質

を概説する。

〔教科書〕：『新化学序説』（第2版）。化学同人教科書研究会編（化学同人）。

生態系科学 4単位

大島 康行

地球は、環境と生物が相互に作用し、一つの系をなしている。この系、すなわち生態系について、構造と機能の両面から基本的な問題を概説する。さらに地域生態系の特徴、生態系の発展と維持の機構について理解していく。後半は生態系と人間生存にかかわる諸問題のうち、食糧、資源、環境問題等を生態系の視点から順次述べ理解を深めたいと考えている。

講義はプリント、スライド、ビデオ等を随時使用しておこなう。参考文献、図書は講義の際、必要に応じ紹介する予定である。教科書として使用するものはない。

基礎数学 4単位

近藤 庄一

高校で学んだ数学を基礎に、連立方程式や円周率など具体的な例から法則や新しい概念を導く。教材はプリントとして配布する予定。〔参考書〕岡大彬訓著『基礎数学』（社会科学、行動科学のための数学入門1）、新曜社。

生命科学論 4単位

中村 桂子

生命科学の特徴は、生物科学の基礎研究を進めて、人間の生物としての側面を解明していく一方、科学と社会の接点を考えていくことである。まず、現代生物学の主流を成す分子生物学で人間理解につながる知見がどこまで得られているかをまとめる。また、それ以外の分野でも、今どこまで人間の理解が進んでいるかをできるだけ広範な視野で捉える。そのうえで、生物学による人間理解と社会における人間観の関係を考えていきたい。

行動論 4単位

春木 豊

下等動物から人間までを「動物」、つまり「動くもの」という。このように行動は下等動物から人間までの全ての生命体のもつ共通の性質であり、特に複雑な内容をもつ人間にとっては、その底に流れていて、人間を支えているルーツの深い現象であるといえる。

日常生活で、人間は一時といえども行動していないことはないのであるが、ほとんど意識することなしに過している。行動学は人間の行動に焦点を当て、そこから人間の姿をながめてみようとするものである。

行動学は一つの大きな体系をもつものであるが、本講においては、特に行動の生態に焦点をしばり、特に、人間関係の行動を中心にその生態を比較行動学的にみてゆくことにする。

なお、この講義は、行動学であるが、その内容は人間科学を考えるためのものであるように進めてゆく。

人 類 学 (自然) 4 単位

保 志 宏

ヒトが生物の一種であることは今日疑う者も居ないが、他方で、ヒトにはヒト独特の特徴もあるはずである。その特徴は、解剖学、生理学、生化学、遺伝学、生態学など、多くの角度から解明されてきた。人類学は、これらのヒト独特の特徴が、どのような進化の過程を経て獲得されてきたのか、何故このような特徴を持つに至ったのか、を明らかにしようとする。

半年という短い期間であるので、化石骨を手掛りとする進化過程の探究を主に紹介することとし、時間が許せば、生態学の一部についても触れたいと思っている。

受講者は下記の書を購入し、教室へ持参すること。(保志)

[教科書]: 保志宏『人類学図表集』(てらぺいあ)

外国語科目

上級英語

ロバート・グレイ

Course Title: Advanced English

Instructor

Time: 90 minutes per week

Limited to students with at least an intermediate English proficiency level.

Only those students who are serious should register. This means that students should plan to attend every class for the entire school year.

Purpose: To practice conversation skills in English through discussions, games, dialogues, and other language development activities.

上級独語

神崎 巖

テキストの講読。テキストの内容は、受講者の希望を採り入れ、かつ多様にしたい。程度は、学部、及び大学院入試問題を解けるような段階を目指したい。

上級仏語

堀田 郷弘

仏語ⅠとⅡの単位習得者あるいはそれと同等の知識を備えた者を対象にした上級仏語の講義です。具体的な講義内容は、時事的なフランス語の講読、フランス語による自己表現などの訓練ですが、参考として昨年度の内容のおよそを掲げておきます。知日フランス・ジャーナリストであるロベール・ギランの現代日本についてのエッセー

『Orient Extreme, une vie en Asie』の抜粋、総合週刊誌 LeNouvel Observateur の日本特集の記事などの講読、各自が決めたテーマ（就職活動、旅行など）による仏作文、フランス・テレビ放送 Antenne 2 のニュースのビデオ（原文と邦訳のテキスト付）による聞き取り訓練のための自習用ビデオの配布など。また仏語入試合格者などさらに仏語能力のある学生には、フランス語による論文の書き方を、テキスト『Du Plan a la Disertation』の講読と論文作成の実際によって適時に指導しました。

保健体育科目講義

スポーツ文化論 2単位

濱 野 吉 生

近代スポーツの発展過程を明らかにしつつ、まず、その本質について考えてみたい。さらに文化としてのスポーツをめぐる、現在どのような問題があり、どうあらねばならないかを、広く国民のためのスポーツという観点から述べていきたいと思う。

行動衛生論 2単位

児 玉 昌 久

様々なストレスに満ちた現代社会で、心身の抵抗力を高め、よりよく適応して健康な生活を維持して行くために、人間の行動のしくみを理解し、自分の行動特徴を知ることが非常に有益である。

人間の行動は精神活動と身体活動の両側面をもつが、それぞれが単独に存在するものではなく、統合された一元的なものである。本講でも心理学、生理学を統合した精神生理学的な立場から問題を採り上げて行くが、異常心理学、精神病理学など「衛生」の背景をなす問題や、人間の行動や認知の機能に関わる心理学的問題、環境心理学や社会心理学など「行動」を理解する上で必要になる問題にも触れていく。

教科書は使わないが、講義内容を理解するための参考書としては、村上仁著「異常心理学」(岩波全書)と、ラザルス講演を林峻一郎が編集・翻訳した「ストレスとコーピング」(星和書店)が役にたつし、心理学系の進路を考えているものは、「行動学入門」(Hebb 著、白井訳、紀伊国屋書店)に目を通しておくことと将来を含めて役にたつであろう。

基礎教育科目

人間の諸問題（総合講座） 4単位

浅井 邦二
濱口 晴彦

人間とは何かという問いかけは、古今たえることなく問われつづけられてきた問いであり、この問いかけに最終的に答えることのできたものはない。しかし、人間は永遠にとらえどころのない謎そのものなのだろうか。謎の多い存在ではあるが、謎そのものではないと思う。

人間の諸問題は生と死、男と女、人間と環境、心と体など、人間をめぐるさまざまな問題をふくんでいるけれども、これらは人間とは何かという大状況の人間ではなく、人間のあり様を時間と空間という2つの軸の中に人間をおいて、もっと身近にひきよせ、多角的に考察する手がかりを与えている。今年度は人間の生と死という、人間の発端と終点をつなぐ過程をふくめ総合的にアプローチする。今年度は「生と死」をテーマにする。詳しい内容は講義登録のさい呈示する。

環境論（自然・人間）（総合講座） 4単位

大島 康行
相馬 一郎

人間と環境のかかわりあいを総合的に考えていき、人間にとっての環境のあり方を再考し、問題意識をもってもらうことを意図している。そのため人間をとりまく自然環境と人間活動による環境の変化とその影響に関する諸問題（自然災害も含む）、人工的・社会的環境と人間の行動といった諸問題を取りあげる。そして現在あるいは近い将来人間の生存にかかわる諸問題を共に考えていきたい。5～6名の教員が分担しておこなう予定である。

バイオエシックス 4単位

木村 利人
濱 清
青木 清

近年生命への関心が高まっている。それは①自然科学の方向転換により自然科学の最前線が生命の探究に向っていること。②生命に関する解明が進むのと並行して生命の操作の技術化が急展開していること。③生命科学の進歩から自然科学的生命観の出現と、操作技術の展開により生命をどうとらえていくか、ということにある。これら三点について、生命科学の研究成果から述べる。（青木）

現代の生物・医科学技術の急激な進歩と発展に対応して展開されてきた「バイオエ

シックス」の基本原理とその体系を、基本的人権及び公共政策の形成に焦点を合わせつつ講義する。(木村)

それぞれの人が体験する病気、死、戦争などを通して、生命の意味についての問題を考えてみたい。(濱)

情 報 処 理 (コンピュータ基礎・実習) 4単位

石 田 敏 郎

野 嶋 栄一郎

教育内容の概略は次の通りである。

1. タイプ練習
2. 図書館情報検索システム
3. 日本語ワープロ
4. コンピュータ通信 (bitnet)
5. システム概説
6. プログラミング入門 (フローチャート)
7. 日本語 DOS
8. BASIC の文法及びプログラミング

上記のような教育実践のもとで次のような教育目標の実現を図る。

1. 身近な教育環境として存在するコンピュータに直に触れ、コンピュータとの対話能力とコンピュータに対する興味関心を育てる。
2. プログラミングという作業を通し、問題解決一般に通じるアルゴリズムを発見し、組み立てる能力を育てる。

〔テキスト〕：逐次自作テキストを配布する。

人間の構造と機能 4単位

木 村 一 郎

野 呂 影 勇

ヒトでみられる様々な生理現象について、分子から個体に至るいろいろなレベルでの構造的理解をもとに、それらのメカニズムについて概論する。主として分子～組織レベルの内容の講義を予定している。人間の構造と機能について総合的に理解するため、および生物としてのヒトを理解するために必要な基礎生物学的な学習を目的としている。(木村)

基礎、健康、スポーツの各学科の学生として、人間の構造と機能について必要な知識を学ぶ。前期においては、臓器レベルまでである。人間と外界の関係の基礎的知識としての観点から、機能について学ぶ。以下の様な項目について講義が行われる。人体の構成の要素・感覚・中枢神経系骨格・筋 (疾患との関係を含む) 筋的負荷と呼吸循環機能・精神的負荷と自律神経機能、毎回配布資料を基にして講義が行われる。(野呂)

〔テキスト〕：別途通知する。

〔参考書〕：『細胞の分子生物学』(B.Alberts 他著、中村・松原監訳、教育社)

『人体生理学 (第2版)』(A.C.Guyton 著、内藺・入来監訳、広川書店)

専門教育科目 (各学科共通 必修)

人間発達の心理学 2単位

青 柳 肇

人間の出発点は受精の瞬間である。人の一生は受精から出生（母胎からの離脱）を経て、新生児，乳児，幼児，児童，青年，成人，老年を通過し，死に至って終了する。本講では，各時期における心理的・行動的特徴について触れるが，特に人間関係（主として家族）とのかかわりを中心に考察したい。

人間発達の社会学 2単位

濱 口 晴 彦

人間発達の社会的側面をつぎの順序で講述する。

1. 人間科学，社会学，人間発達
2. 社会学的人間発達論
3. 人間発達論の過去と現在
4. 産業化，近代化，都市化と生活の質
5. 人間発達と集団
6. 人間思想の社会化
7. 人間発達の社会学－まとめ－

人間発達の生命科学 2単位

木 村 一 郎

ヒトの一生における生殖，発生，成長，成熟，老化，死などの問題の理解の一助となるようなものとするを目的とする。

内容としては広義の動物発生生物学を基礎とし，組織や器官の形態形成などを扱いながら生命秩序の構築の基礎となる細胞の挙動について，“細胞社会学”的観点から考えてみたい。また，最近の生物工学や生殖医療等の発展の中で発生生物学も大きくその研究方法において変貌を遂げつつあるが，発生工学ともいえるべき分野の研究手法やその成果についても解説し，バイオ時代の基礎生物学の理解のための，あるいは生命倫理を考えるための生命科学的基礎知識の提供，ということも意図してみたい。

人間発達のスポーツ科学 2単位

永 田 晟

人間の发育発達を生涯の生理的成長や加齢現象として捉え，それにスポーツがいかに働きかけ，いかなる影響をもつのかを講義する。そのためには，人間発達の様子を科学的に分析し，加齢と人間機能の関係を明確にしなければならない。さらにスポーツを科学的に分析し，人間とスポーツの相互関連を人間発達上から考察する必要がある。

る。さらにスポーツの効果を客観量として提示し、人間発達上に占めるスポーツの意義を明確にする。そして人間発達におけるスポーツの役割と位置づけを論証し、万人のためのスポーツとそのスポーツ権を確立する。

これらの内容を主に生理学、心理学、解剖学、社会学、物理学、人類学、老人病理学の立場で詳講し、The biology of aging and sports”を中心に Gerontology”の意味を理解させる。

〔教科書〕：『加齢のスポーツ科学』（ぎょうせい）

人間発達の行動学 2単位

春 木 豊

行動は生命、精神、社会とともに、人間を考える上での重要な側面である。他の側面と同様に行動は発達する。

行動は日常生活の中でさまざまに現象しているが、本講では、人間関係行動を取り上げ人間発達にともなって、この行動がどのような様相を示すかを考察したい。発達とともに、人間関係行動はバラエティーを増すが、親子関係、兄弟関係、仲間関係、夫婦関係、職場関係について、概観し、人間関係行動の発達の様相とその成熟について考えたい。

専門教育科目 (人間基礎科学科 必修)

生物学概論 2単位

大島 康行

人間はヒトとして生物が共通して持っている生命の諸機構に支えられて生きている。従って、人間科学を学ぶためにはヒトを含めた生物科学の正しい理解と認識を持たなければならない。

この科目は生物科学の各分野の科目を履修するに先だち、生命のしくみの基本的な諸問題について概説し、これらが人間が生きる上にいかに重要であるかを考えていく。プリント、ビデオ等を使用し、講義を進めていきたい。特定の教科書は使用しない。

比較形態学 2単位 (92年度まで開講)

山内 兄人

哺乳動物はそれぞれ特有の生活があり行動パターンをもつ。その行動は中枢神経系（脳-脊髄）で制御されている。中枢神経系の構造は基本的にはどの動物でも同じであるが、行動様式の違いなどで良く発達している部分と、退化的な部分がみられる。いろいろな動物（特にヒトとラット）の神経系の構造と機能を比較し考えていきたい。

行動学概論 2単位

春木 豊

行動は、人間の生命、精神、及び社会性ととともに、人間を考える上での重要な側面である。行動なしには、生命の維持、精神の実現、人間関係の活性化は生じ得ない。

このような行動は、意味論、生態論、構造論、機能論、制御論、発達論、検査論に分けることができるが、本講においては、特に構造論、制御論に中心をおいて述べることにする。人間科学としての行動学の理解を計りたい。

自然人類学 2単位 (91年度生からは選択科目となる)

北原 隆

ヒトの起源と進化に関する知見をふまえて、ヒト系統の主な段階に伴って現れた新しい行動を検討する。特に、直立歩行、道具製作にもとづく技術文明、食物分配を含むグループ内の相互協力、言語によるコミュニケーションという行動の出現を一般生物進化の解明に使われる進化統合理論の立場から現在人類学者がどのように考えるかを講述する。

なお、上に述べた理由で、この科目を受講する学生は、一般教育科目「人類学」を履修することが望ましい。

テキストは「黒田・片山・市川著 人類の起源と進化 有斐閣双書」

心理学概論 2単位

青 柳 肇

心理学とは何かについて、その成立の歴史と方法論について学んだ後、知覚学習、パーソナリティなどの問題に触れる。一般に伝えられている心理学に対する誤解を改める方向に進めていく。

社会学概論 2単位

柿 崎 京 一

社会学の研究对象は、社会生活を営んでいる、いわば「社会の中の人間」である。すなわち多くの人びとと多面的に関係をもって行動している生活主体としての人間ということである。本講義では、この人間の社会行動を基軸として、社会的相互作用・社会関係、社会的役割と地位、社会集合と組織および社会規範と社会的エントロピーなど研究の主要な分野における社会学の理論的成果を解説し、社会の中の人間について考えてみたい。

テキスト：浜口・嵯峨座編「社会学講義」（早大出版）

社会生命科学 2単位

中 村 桂 子

生命科学は、生物科学の基礎研究を進め、人間の生物としての側面を解明していく一方、科学と社会の接点を考えることを特徴としている。具体的には技術を通しての社会への影響、科学活動の社会の中での位置づけ、生物科学が明らかにしつつある事実と自然観・生命観の関係という三点が課題となる。急速な生物科学の進歩に対応して、その社会との接点にも、次々と新しい課題が出てくる。それらをできるだけ適確に捉え、整理する。

統計学概論 2単位

嵯峨座 晴 夫

全体は、統計調査論と統計解析論からなる。もちろん、統計データの解析手法の解説が中心であるが、講義の前段では、統計データの信頼性の問題について考察する。統計データの利用にあたっては、まずその作成段階における問題点を明らかにし、統計の評価を行うことが絶対に必要であるからである。

演 習 I 4単位（92年度より演習の内容及び担当者が変更になります。）

4班にわかれ、人間を解析する基礎となる生物学系、心理行動学系、社会学系の3学系の基本的実験技術、思考方法を学ぶ。詳細はオリエンテーションの際に説明する。

木曜日 第1班 浅井邦二 中村桂子 矢野敬生

第2班 大島康行 吉村作治 佐々木正人

金曜日 第3班 春木 豊 白井恒夫 山内兄人

第4班 吉岡 亨 青柳 肇 池岡義孝

演 習 II (人口問題) 4 単位

嵯峨座 晴 夫

人口変動が人々の社会生活との関連においてもたらす諸問題、つまり人口問題は今日の世界的関心事である。この人口問題は、食糧問題、雇用問題、人口増加問題など古くして新しいいわば伝統的問題から新たに最近立ち現れてきた過密・過疎、人口の都市集中、高齢化、環境破壊、外国人労働者、難民、中絶、人口減少などの諸問題まで広い範囲にわたっている。演習の前半では、これらの諸問題の意味と関連づけを概観する。後半では、参加者各人がテーマを設定し、具体的な事例をあげて報告を行う。

演 習 II (村落社会の構造と変動) 4 単位

柿 崎 京 一

人間にとって基礎的な社会関係・社会集団の一つである村落(農山漁村)社会を対象とし、村落を構成する単位・要素、さらにこの諸単位・要素間の諸社会関係をとらえ、それらが一定の空間のもとで、全体として一定の秩序にもとづいて統合している実態、すなわち村落の社会構造と、その変動過程についての理解を深めることを課題とする。その場合、村落社会の構成単位・要素、諸単位・要素間の諸関係には、家族(家)や同族・親類・近隣・各種年齢集団、さらには政治・経済・宗教・教育関係など多様な展開を通例としている。

本演習では、以上の課題に即して事例研究(モノグラフ)をとりあげて紹介(講義)すると同時に、基本的文献を選定し、輪読・討論を通じて理解を深めたい。使用する文献は本授業のはじめに指示する。

演 習 II (現代都市社会論) 4 単位

臼 井 恒 夫

本演習では、現代の都市生活の社会学的解明を主題とし、次の5つの視角から接近する。

- 1 都市の家族生活の展開と変容
- 2 近隣関係及び地域集団
- 3 都市問題・住民参加
- 4 都市社会構造
- 5 比較都市社会論

こうした作業を通じて、社会学者がこれまでどのような方法で都市を研究してきたかを明らかにし、そのうえで現代都市の構造や機能あるいは変動の実態を検討していく。できればわが国の都市の現状や問題にも目を向けてみたい。

演習の進め方としては、前期は主として都市社会学に関連する基本文献の講読をおこなう。後期は、参加者各自の問題関心にそって、研究発表と討論を中心に進めていきたい。

演 習 II (細胞の構造と機能) 4単位 木村 一郎

細胞の構造と機能に関する基礎生物学を、文献の講読・討論を通じて細胞生物学的・生理学的・生化学的観点から学習する。さらに、バイオテクノロジーを含む現代生物学における細胞生物学の現況についても具体的研究例を文献講読等を通じて学習し、併せて科学研究およびその発表などのあり方について学ぶ。

演 習 II (生物の遺伝機構) 4単位 飯野 徹雄

生物の遺伝機構の解明に大きく貢献した研究業績にかかわる論文を設定し、輪読討論方式により、それらの学術上の意義を理解せしめると共に、科学研究における計画の立案、遂行、発表、また、それに対する評価はいかにあるべきかを会得せしめる。

演 習 II (認知の発生理論) 4単位 佐々木 正人

認知心理学、認知発達研究、認知科学の最近の成果を講読し検討する。1991年度は特にエコロジカルな認識研究の理解を柱にする。形式的・抽象的と考えられがちな認識の働きを、具体的な日常生活と結びつける観点について議論したい。フィールドと実験を有機的に関連づける人間研究の方向についても議論し、実践したい。

演 習 II (セルフコントロールの理論) 4単位 根建 金男

セルフコントロールの方法のうち、行動論的セルフコントロール、バイオフィードバック、自律訓練法、漸進的弛緩法など、主要なものについて説明する。なお、セルフコントロールの方法を体験的に理解できるように、ビデオによる学習や、技法と心理テストの実習もできるだけ多く行いたい。

教科書は使用しない。参考書はその都度指示する。

演 習 II (ノンバーバル行動の理論) 4単位 (本年度休講)

演 習 II (達成動機) 4単位 青柳 肇

達成動機とは、目標に高い基準を設定し、独自な方法でそれをやりとげようとする動機ということができる。ここでは、主として達成動機に関する国内外の雑誌や文献を読み、理解を深める。更に、実際に実験を行なって、達成動機に関する研究法も学ぶ。

教科書、参考書、文献については、授業でその都度指示する。

演 習 II (脳神経科学) 4 単位

濱 清

- 1 興奮伝導 (形態, 生理, 生化, 病因)
- 2 興奮の伝達 (電気および化学シナプスの構造, 細胞化学, 生化, 生理, 病因)
- 3 脳神経系発生 (形態形成, 機能発現に関与する分子機構)
- 4 感覚器 (構造, 受容とトランスダクションの分子機構)
- 5 行動

などについての新着および関連文献の検討

平成5年度より演習IIの形式, 内容, 及び担当者が変更されます。

上記の担当者以外に下記の担当者に加わります。

演習II前期は, 人間科学について総合的に考えてみるためのものである。人間科学に深く関わりをもっている生物学, 心理行動科学, 社会科学についての専門の立場から, 人間を科学的にみるための方法や, 人間のさまざまな側面に関する知識を習得する。学生は教師とともにこの演習を通じて人間を総合的に理解するための科学である人間科学を創造していく訓練の場としたい。学生は数班にわかれ, 1 班数人の教員が担当し演習を行なう。

演習II後期は一人の教員につき専門知識を深める。

*登録の際は演習II後期に教わりたいと思う教員を登録する。

演 習 II (ライフコースの社会学) 4 単位

池 岡 義 孝

「人間発達」への関心はいまや発達心理学にとどまらず, 社会学, 人類学, 生物学, 人口学, 歴史学など多くの学問領域へと広がりをみせている。しかも現在の発達研究には, そのパースペクティブを誕生から死までの生涯発達へ拡張するという認識が共有されている。本演習で人間発達研究の学際的なアプローチである「ライフコース・アプローチ」にかかわる文献を講読し検討する。また, ライフコース・アプローチのデータ収集とデータ分析の実践的な技法についても学習したい。

演 習 II (異文化理解と文化の理論) (93年度より開講) 4 単位

矢 野 敬 生

文化人類学の人間科学への寄与のひとつは, 「文化の多様性」についての認識である。そこで, この演習では, <文化> を中心テーマとしてとりあげ, 異なる文化に生きる人々の生活様式, 社会構造, 観念体系を照射することによって, 文化の隠された意味と構造を明らかにしたい。すなわち, 異なる文化(other cultures) の理解をととして, 人類の固有財としての文化 (Culture) にせまりたいと考えている。

そこで, 本演習では前期は主として, 異文化理解の前提として, 文化人類学の基本文献の講読を行う。人類学者は異なる文化を対象として, フィールドワークをととし

て、一義的には民族誌 (ethnography) を記述することによって、異文化理解の方法を探究してきた。そこで後期は特定の文化に関する民族誌を輪読するとともに、併行して各自の関心領域にもとづいた研究発表と討論を通じて異文化への理解を深めたい。

演 習 II (93年度より開講) 4単位 中 村 桂 子

「生命」をキーワードにして、現在科学技術文明が転換し、新しい文明が生れるための枠組を考える。そこで新分野として「生命誌」を素材に議論を進める。

演 習 II (93年度より開講) 4単位 山 内 兄 人

動物としての人間の機能で重要なものの一つとして生殖があげられる。生殖生理は雌では卵子形成－性行動－排卵－妊娠－分娩－授乳－母性行動、雄では精子形成－性行動といった一連の機能よりなる。これらの機能は脳とホルモンの相互作用より行なわれているが、この演習では、それらに関する論文を読む事で基本的知識を学んでいきたい。また、それらの機能に付随する、雌と雄の脳の違い、脳の右と左の違いなどにもふれたい。

演 習 II (93年度より開講) 4単位 春 木 豊

行動という概念を中心に、これと関連のある分野（既存のテーマとしては行動理論や非言語行動）は勿論であるが、行動に関連のある新しいテーマをさぐり、文献研究をする。

演 習 II (93年度より開講) 4単位 大 島 康 行

人間を含め生物が周囲の影響のなかで、どのように生活しているかを、個体から集団へ問題を発展させ、演習を進める。また最近の人間活動による影響変化とその影響、いわゆる環境問題についても論議したい。各自の発表と討論の形式を中心に進めていく。

演 習 II (心理検査の理解と実施) (93年度より開講) 4単位

浅 井 邦 二

心理検査に欠くことのできない要件としての妥当性、信頼性の問題から、質問紙法、作業検査法、投影法などによる心理検査の効用と限界について、討論しながら進めたい。

演 習 II (環境社会学) (93年度より開講) 4単位 浜 口 晴 彦

本年度体講

- A. 環境と人間 (Eco-sociology)
- B. 人間と加齢・寿命 (Social Gerontology)
- C. 加齢・寿命と生き方 (Creative Sociology)

という3つの学際領域を自然と人間と社会の相互交流の問題として社会学，社会老年学，発達論の方法と考え方にもとづいて検討し，総合的に把握することを目指す。

演習 II (93年度より開講) 4単位 吉岡 亨

この演習の目指すところは，細胞内部における情報伝達機構の理解である。我々の身体は多くの臓器や組織から成り，各々の臓器や組織は多数の細胞の集合体である。我々の身体や心の問題を根本的に解明するには，身体を構成する最小単位としての細胞と，細胞同志の間の相互作用を解明しなければならないのは，至極当然のことである。

細胞を理解するための有力な方法は細胞に信号を送り込んだとき，その細胞がどのような応答を示すかを詳細に調べることである。そこでこの演習では主に脳の細胞(ニューロン)を中心として，各種の刺激に対する応答の仕方を分子レベルで理解することになる。このような学問領域は，「分子神経生物学」または「細胞情報伝達学」と呼ばれているものであり，学習や記憶といった脳の高次機能を理解するための最小限の知識や方法論を提供するものである。

演習 II (異文化理解と文化の理論) (93年度より開講) 4単位

矢野 敬生

文化人類学の人間科学への寄与のひとつは，「文化の多様性」についての認識である。そこで，この演習では，〈文化〉を中心テーマとしてとりあげ，異なる文化に生きる人々の生活様式，社会構造，観念体系を照射することによって，文化の隠された意味と構造を明らかにしたい。すなわち，異なる文化 (other cultures) の理解をとおして，人類の固有財としての文化 (Culture) にせまりたいと考えている。

そこで，本演習では前期は主として，異文化理解の前提として，文化人類学の基本文献の講読を行う。人類学者は異なる文化を対象として，フィールドワークをとおして，一義的には民族誌 (ethnography) を記述することによって，異文化理解の方法を探求してきた。そこで後期は特定の文化に関する民族誌を輪読するとともに，併行して各自の関心領域にもとづいた研究発表と討論を通じて異文化への理解を深めたい。

専 門 教 育 科 目 (人間基礎科学科 選択)

細胞学及び実習 3単位 ('92年度から「細胞学・発生学及び実習」へ名称変更)

木 村 一 郎

臨海実験所に合宿しての講義及び実習を中心としたものとする。合宿は後期授業終了後、春季休業開始時に集中して行う。なお、所沢キャンパスにおいても若干の講義を行う。

海産動物の生きた細胞を用いての細胞学的及び発生生物学的な観察に主眼をおき、それに関連した講義を併せて行う。極めてダイナミックな姿を我々に見せてくれる生きた細胞・胚を観察することによって、通常の学習ではややもすると“死”物学となりがちなるものを“生”物学として実感してもらうことを大きな目的としている。

具体的には、主としてウニ等の海産無脊椎動物を材料にして、配偶子細胞や受精の観察と実験、正常発生の観察、実験発生学的操作による観察、などを行う。

組織学及び実習 3単位 ('92年度から「神経内分泌学及び実習」へ名称変更)

山 内 兄 人

動物の身体を構成する組織は作られてしまったら永久にそのままではなく絶えず新しい細胞が供給されている。その変化はホルモンや神経などいろいろな因子により影響を受ける。それらを考えながら動物(ラット、ヒト)の組織を考えていきたい。実習はラット組織標本の作成との観察。脳の凍結組織標本を作成し内部を調べる。自分の血液組織観察等である。

なお、組織学及び実習と生理学及び実習は、共通の講義及び実習を行う。

神経内分泌学及び実習 (92年度より開講) 3単位

山 内 兄 人

脳とホルモンの機能を知るにはいろいろな手段が考えられるが、基本的なものとして形態的、行動的变化を調べる方法がある。この実習ではラットをもちいて脳と内分泌腺頭微鏡標本を作成し、それらの構造を理解すること。また、去勢をしたりホルモンの投与をしたりして、それらがどの様に変化するか調べ、神経内分泌学の基本的実験技術を学んでもらう。さらに、脳の手術の技術も習得してもらう予定でいる。講義は脳とホルモンの関係について行う。

生理学及び実習 3単位 ('92年度から「生理学・分子生物学及び実習」へ名称変更)

吉 岡 亨

中 村 桂 子

本科目においては、生理学全般を理解する上に於て欠くことの出来ない基礎的な概念を習得せしめる事に重点を置く。そのため、講義は細胞の生命活動の基本は生体膜にあることを徹底的に理解させる。実習は自分自身の身体を実験材料として用いながら、心電図の解析や神経情報の伝達反応速度といった生理測定と血液成分や尿の分析といった生化学的な実習を併せて行う。

遺伝学及び実習 3単位

飯 野 徹 雄

遺伝学発展の歴史に沿って、遺伝子概念の成立、遺伝的変異の機構、遺伝情報系の実体、遺伝子発現の制御機構等の基本的知識を講述する。

実習においては、遺伝学的分析法の基本である遺伝形質の検定法、遺伝子のクローニングの法、遺伝子DNAの分画法など基礎技術を習得せしめる。

脳神経科学及び実習 3単位

濱 清

生体の機能には必ずそれに対応する構造の裏付けがある。ここでは脳神経系を構成する細胞要素の詳細な構造とその機能との関連を解説する。

実習：神経組織の電子顕微鏡標本作製、写真の撮影及びその見方の指導を行う。

情報生理学及び実習 3単位

吉 岡 亨

ヒトが生命を任うするためには、摂食・生殖などの諸行動をつつがなく行わなければならない。ヒトはこのために外界の状況を観察し適切な対応を行っている。そのために体内には電気的情報（神経インパルス）と物質的情報（ホルモン）の伝達経路がすき間なく配置されている。ここでは電気的・物質的情報の伝達の機構に焦点を絞って解説すると同時に、実習を通して、それらの現象を体験的に理解させ、ヒト体内の情報伝達システムを総合的に理解させる。

生態学及び実習 3単位

大 島 康 行

ヒトも含め生物は個体として、また集団としてそれぞれの環境の中で生活し、また、その生活を通して環境を変えていく。野外の生物、生物集団は一見混沌としているようであるが、実は複雑な要因がからまりあった見事な法則性の中で秩序ある生活をしている。この生物集団の基本的諸問題について講義し、いかに見事なしくみで生活が維持されているかを理解していきたい。

実習は講義と連携させ、基礎的実験をおこなう。実習は野外で一部集中して実施することもある。生態学を受講する学生は、一般教育科目「生態系科学」、専門教育科目「生物学概論」を履修しておくことが望ましい。教科書は使用しない。

生 物 工 学 2単位 (平成4年度まで開講)

飯 野 徹 雄

生物工学の基本技術である、細胞培養、細胞融合、組換え、DNA、バイオリアクター等の諸技術について、その成立の背景と技術的内容を通説した上で、生物工学活用の現状を、生物生産、育種、難病治療等の各種応用分野にわたって講述する。

比 較 行 動 学 2単位

青 木 清

ヒトも含めた動物の行動発現と行動の特徴について、神経生理学的方法による成果について述べる。①動物における本能行動、②学習、③行動を制御する中枢神経系、④行動の発達と脳、⑤神経生理学に基づいた本能論などを述べる。これら課題については最近の研究成果にもとづいて述べるが、本論義の目的は人間の自然科学的理解を得ることにある。

生 理 心 理 学 2単位

山 崎 勝 男

主として、動物の生理的な変数を独立変数として操作し、それに対応して生じる行動を従属変数としてとらえ、行動の生理学的な機序を解明しようとする学問領域を生理心理学という。行動の諸側面を中枢神経系の構造と機能とに対応づけて考察する、生理学と心理学の学際的な立場をとる。狭義には行動の神経生理学と呼んでもよいが、最近では神経科学に包括されている。ここでは脳損傷、脳刺激、薬物投与、食餌規制などの生理学的な方法を用いて、それらが動物の行動に及ぼす影響を、意識水準、学習、記憶、情動、動機づけ、条件反応、自己刺激、食餌選択などの心理学的な方法で観察した結果を紹介し、両変数を媒介する中枢過程を概説する。またこの学問領域と密接な関係を持つ精神生理学にも言及する。

認知行動理論 2単位 (旧行動理論)

根 建 金 男

認知行動理論ならびに、それに基づく心理治療の体系である認知行動療法について学習する。認知行動療法は、従来の行動論的アプローチと認知的アプローチを統合したものであり、行動療法と精神療法をつなぐものでもある。講義の前半では、認知行動療法の基盤となった従来の行動論的アプローチの理論と実際を概説する。後半では、認知行動療法の理論と実際について解説する。講義は、治療の実際を示すビデオによる学習、治療の技法の体験、心理テストの実習なども含めて行う。受講者が認知行動理論の考え方を日常に生かせるようにしたい。

教科書は使用しない。参考書はその都度指示する。

行動学研究法及び実習 3単位（'92年度より担当者変更）

根 建 金 男

心理学研究法及び実習 3単位（'92年度より担当者変更）

佐々木 正 人

心理学的測定法及び実習 3単位（'92年度より担当者変更）

浅 井 邦 二

心理学的測定法は、心理学研究及び行動学研究に従事する者にとって事象の特性を数量化するのに不可欠な条件である。故に、すべての学生諸君に基本を収得して欲しい方法である。その知識を実際に生かし、心理学研究、行動学研究それぞれの実験実習を通じて、心理的、行動的側面の測定とはいかなるものかを体験してもらう。実験後はレポート提出を義務づける。実験実習での1回の欠席は、自他ともに多大な影響を及ぼすので、各自の自覚を望む。

非言語行動論 2単位（本年度休講）

鈴 木 晶 夫

非言語的情報伝達手段として代表的チャネルに、表情表出、視線行動、身振り（ジェスチャー）、空間行動などがあげられる。これまでの研究から導き出された事実を中心に講義し、非言語的行動を通じて、動物や人間がどのようにして他者とコミュニケーションを形成し、維持し、発展させているのかについて考えたい。

認知発達理論 2単位

佐々木 正 人

エコロジカルな認知研究の枠組と最新の成果について講義する。

内容はギブソンの知覚理論、パートレットのスキーマ論、バフチンのジャンル論とジェスチャー研究などである。

「からだ：認識の原点」（認知科学選書15東大出版会）を教科書に指定する。

動機づけ理論 2単位

青 柳 肇

動機づけは、心理学研究のなかで最も基礎的領域の一つである。何故そのような行動をとるのか、何故そのように考えるのか、といった「何故」を問題を扱うのが動機づけだといってよい。ここでは、動機づけの考え方の古典的なものから現代のものまで、歴史的変遷を踏まえて述べていく。

社会学理論史 2単位

濱 口 晴 彦

現代社会学理論の形成過程を、

1. 社会学思想の形成
 2. 社会学理論の特徴
- の2つの観点から講述する。

社会集団論 4単位

矢野 敬生

社会は単なる個人の集まりではなく、ひとは互いに依存しあい、なんらかの関係をもちながら生きている。こうした営みを集団性の視座からとらえる。そこで、社会学の「集団論」のみならず、社会人類学の「社会組織論」の成果をふまえて講義をすすめる。基本的には、時間的歴史的展望を縦軸に、横軸には各レベルに対応した特徴的な集団である親族集団、村落共同体、機能的集団に焦点をあて、現実の諸社会のもつ多様性の把握を通じて、社会集団の諸相を明らかにしたい。特に、本年度は、前期において一般的理論を展望し、後期は、演習方式（学生諸君に発表してもらう）で、考察する予定である。

社会集団論 4単位

矢野 敬生

社会は単なる個人の集まりではなく、ひとは互いに依存しあい、なんらかの関係をもちながら生きている。こうした営みを集団性の視座からとらえる。そこで、社会学の「集団論」のみならず、社会人類学の「社会組織論」の成果をふまえて講義をすすめる。基本的には、時間的歴史的展望を縦軸に、横軸には各レベルに対応した特徴的な集団である親族集団、村落共同体、機能的集団に集点をあて、現実の諸社会のもつ多様性の把握を通じて、社会集団の諸相を明らかにしたい。特に、本年度は、前期において一般的理論を展望し、後期は、演習方式（学生諸君に発表してもらう）で、Selly, H.S. 1975 Social Organijation : Symbol, Structure, and Setting を教材として考察する予定である。

家族社会学及び実習 3単位

池岡 義孝

本年度の実習の課題は、ライフコース研究の基本的な考え方とデータ収集およびデータ分析の技法の習得におく。ライフコース分析とは、個人の生涯発達を家族経歴、教育経歴、職業経歴などの社会的経歴と、身体の発達や健康状態の変化、さらに価値観や意識の形成と変化から構成されるものとして概念化し、それを歴史・社会・文化変動との相互作用のなかで分析するものである。実習は次のような作業手順で行なう。

- 1) ライフコース研究の基本的な考え方とデータ収集およびデータ分析の技法を、文献の検討によって習得する。
- 2) 各人のテーマを設定し、それにもとづく調査表を作成する。
- 3) 予備調査の実施。
- 4) 本調査（合宿）の実施。
- 5) 収集したデータの整理と分析。
- 6) 調査報告書の作成。

本実習は前期配当科目であるが、実際の運営は通年制とする。ただし、希望する学生には現地調査を個別的行なう方法も考えている。

村落社会学及び実習 3単位

柿崎 京一

人間の創造した生活基盤としての地域社会の中で、ここでは農山漁村を含む村落を

対象とし、生活者としての人間について実証的に理解することをねらいとする。本授業では、大別して2部構成からなる。1)村落社会及びそこでの生活者を理解するために既存の研究成果について講義し、問題の所在を明らかにする。必要に応じアジア諸国の村落についても触れる。2)調査実習を通して実証的研究の方法について学習する。

とくに後者の調査実習については、1)各自がそれぞれ研究テーマを選定し、テーマに即して作業仮説を設定、2)調査項目及び調査表の作成、3)予備調査、4)本調査(合宿)を前期に行い、後期は5)調査収集資料の整理・分析、6)補充調査、7)報告書作成について指導する。なお、この間に中間研究報告を随時行う。但し、現地調査について個別調査を希望する者については別途考慮する。詳しくは授業のはじめに指示する。

都市社会学及び実習 3単位

白井恒夫

現地での調査実習及び既存資料の二次的分析をおこなうことを念頭において、都市社会学に関連した研究テーマを各自の問題関心のなかから引き出したい。そのために、参加者の研究報告と討論を中心にして、具体的なテーマ設定に結びつけていく。したがって、研究テーマ、調査地、調査方法などは今のところ未定であるが、こうした集中的な作業をつうじて、文献の読解力、集計・分析・報告の能力を身につけてもらいたい。

なお、本講は前期配当科目であるが、調査実施の必要上、実質的には、通年制をとることになる。予定としては、前期終了直後ないし後期の早々に現地調査を実施し、後期の授業時間で調査結果の集計・分析及び報告書作成の作業を進めていく。

社会福祉論Ⅰ 2単位

児玉幹夫

社会福祉は、「人間科学」という総合科学が、現実に活用される実践領域である。人間の生活は、身体的・精神的・社会的・文化的な諸側面が密接にからみ合って全体を成り立たせているので、問題の表面化している一側面だけを補修しても、生活全体は改善されない。近年提唱されている統合的ソーシャル・ワークは、心理学・社会学・人類学・生理学など関連諸科学を体系化し、人間生活をトータルにとられる立場から、福祉の増進に寄与しようとする試みである。

社会福祉の思想と制度の発展と現状をあとづけながら、福祉の実践がヒューマンズに支えられているように、福祉の研究がいかにヒューマン・サイエンスに基礎づけられているかを考えていきたい。

社会福祉論Ⅱ 2単位

麦倉哲

Ⅱでは、主として日本における社会福祉の現状と課題について、社会福祉調査との関連で講ずる。社会福祉施策の対象と方法は、当該社会の制度によって定義されており、この制度は近代社会においては人びとの合意を前提とする。社会福祉の現状に対

して人びとがたえず関心をもつことで、制度は適宜確認され、必要に応じて見直される。社会福祉調査の意義は、単にそれが社会福祉技術を改善に導くだけでなく、社会福祉の現状に対する人びとの関心を喚起することにある。

現状では、児童、高齢者、心身障害者、そして生活障害者などを対象にして、種々の施策が組み合わされている。こうした施策の諸局面において、社会福祉調査がどのように役立っているのかを考えたい。また、あらたに注目を集めている大都市居住問題や外国人問題に対して、どのような調査が可能であるのかを考えたい。

社会病理学 2単位

臼井恒夫

社会病理学は、人間の行為、生活、社会集団に生じた障害を社会学的手法を用いて分析、検討し、その障害を取り除いて安定した社会生活を実現する方策を探究する。その意味で社会病理学は、社会学のなかでもっとも実践的志向の強い領域であるといえる。

本講では、社会病理学への理解をえるために、その形成と発展の歴史をそのときどきの社会的背景と照らしあわせながらあとづけていく。テキスト、参考文献については教場で指示する。

人口学（老年学を含む） 4単位（'92年度よりⅠとⅡに分割されます。）

嵯峨座晴夫

人口学(demography)は、主として、人間の集合体である人口に変動をもたらす出生、死亡、移動などの諸要因の分析と、人口と社会経済的変数との相互関係を解明することを目的としている。体系化された人口分析の方法、および応用としての人口研究の理論を紹介するとともに、社会老年学の立場から、高齢化社会における高齢者の社会的役割と扶養の問題について考察を加える。

特 論Ⅰ（現代免疫学） 2単位

加茂功

生体全体はバランスよく統御されており、病原体や異物の侵入に対しても恒常性を維持しようとする機構が作用する。これを生体防御と呼んでいる。その最も進化した機構が免疫と呼ばれるものである。免疫応答は自分と自分でないものを識別するプロセス、非自己と識別したものに対する免疫反応を増幅するための細胞や、分子を産生するプロセス、そして非自己と一度遭遇したリンパ球クローンを免疫記憶として温存し、次回には速かに応答できるようにするプロセスから成り立っている。

最近の学問の進歩はめざましくこのようなプロセス等を細胞、遺伝子、分子レベルでとらえることが可能になり、病気の予防、治療の面への利用もはかられている。本講では、以上の点を論じていきたい。

特 論 II (社会福祉調査) 2単位

外 木 典 夫

社会福祉調査は、ケース・ワークやグループ・ワークと異なり、人々の問題解決に直接たずさわる方法ではなく、社会福祉に必要な資料を提供し、事業の理論化をはかり、将来の予測をも行う役割を負う。この調査は、個人、集団、地域社会のニーズ測定や充足の度合いの検証に向けられてきた。この講義では、社会福祉調査の方法についての基本的な理解を深めるようにつとめたい。

専 門 教 育 科 目 (人間健康科学科 必修)

福 祉 援 助 論 2単位

岡 野 静 二

欧米における社会福祉の発達と、その日本への影響について考える。またそれとは別に、わが国における福祉的行動の歴史的展開を調べる。そして日本の精神的風土の中で、なにが福祉援助を、基本的に支えるものなのかを探りたい。そこで次の項目にしたがって授業をすすめることにする。

1)欧米における福祉援助とそれを支える社会 2)日本における福祉援助とそれを支える思想と社会 3)今後の課題

地 域 福 祉 論 2単位

岡 野 静 二

現代社会における地域福祉の重要性を、説明しつつ、福祉が地域社会形成の基本的条件であることを明らかにする。そこで次の項目の順序で、講義をすすめる。地域社会とボランティア活動。地域社会と小・中学生問題。地域社会と青年問題。地域社会と高齢者問題。以上の講義には、実践的な問題や課題を、多く提出することにする。結局、地域福祉の課題として、なにができるか、どこまでできるかを、じっくり考えることがねらいである。

臨 床 心 理 学 2単位

門 前 進

臨床心理学は心理学の現実への応用に重点がおかれている。

内容として大きく分けると、人格理解、心理療法ということになる。しかし、人格理解においても心理療法を基礎とした人格理解の理論や、目の前の人間の行動や、心理検査を通して理解するといった理解の仕方がある。また、心理療法においても、さまざまな人格理解を基礎にした技法が現在用いられている。さらに、心理療法の対象に関してもさまざまな人がある。例えば、子どもから老人。健康的な人の悩み相談から、精神的に明らかに病気であるという人までいる。

このようにさまざまな領域が考えられるが、これらについて全般的に話していくつもりである。

人 間 関 係 論 2単位

安 藤 喜久雄

人間関係は、社会、組織、集団の構造、システムや文化、風土などによって規定される。それゆえ、日本における社会、組織、集団の構造的文化的特質をふまえながら、社会、組織、集団と個人との関係や日本人の意識などについて分析検討を行う予定で

ある。

参考文献は授業中に指示する。

人間関係論Ⅱ 2単位

齊 藤 勇

人間関係の心理学的アプローチを中心に講義する。講義内容は次の通りであるが、可能な限り、実際の調査や実験も実施していく予定である。

- ・人間関係の認知
- ・人間関係と感情
- ・対人間の相互作用
- ・集団の中の人間関係
- ・組織の中の人間関係
- ・人間関係を知る研究方法

精神身体医学Ⅱ 2単位

半 田 貴 士

精神と身体との関わりを論ずる場合、種々のアプローチがあると思われるが、本講義では、精神医学全般にわたる基礎的概念についての理解を行った上で、次の大きな2つの観点から講述する。

1)人間の心理過程とその異常が、どこまで身体としての「脳」とその機能障害に関連づけて理解可能であるか。(神経心理学的立場)

痴呆、脳局所損傷などを中心に述べる。

2)人間の精神機能の障害が、身体症状として、どのような形でまたいかなる機制で表現されるか。

ここでは、心身症、ヒステリー、精神分裂病などについて言及する。

また、東西の心身論についても、紹介、解説する予定である。

環境心理学Ⅱ 2単位

佐 古 順 彦

レストランでの食事、図書館での学習、コンサートでの音楽鑑賞などのように、場所と行動との間には一定の対応関係がみられる。「行動場面」の理論（「生態心理学」）に関するロジャー・バーカーたちの研究について解説する。さらに、身近な行動場面の自然観察をおこない、行動場面の調査法を学習する。

運動・保健概論 2単位

宮 崎 正 己

健康についての定義は、WHOの定義にあるが、あまり現実的ではない。それよりも健康は、たくましさをもった面も存在している。このことは、身体的な面だけでなく、精神的な面についてもあてはまる。よりポジティブな健康の維持・増進をはかるためには、身体的な面については、健康を支える能力を強化することである。

本講義では、人の機能を中心として、種々なる環境条件下における生体の発現について、身体活動の知見を中心に進めていく。参考書は、授業中に指示する。

レクリエーション論 2単位

吉 村 正

レクリエーション（以下レク）の概念、レクの日米比較、レクの分類と展開、レク指導者とその指導法、レク施設と環境などについて講義する。

また、その中でもセラピューティック・レクリエーション（治療レク）とリゾートやレジャーについては、詳しく講義したい。

演 習 I 4単位

健康科学科は、大きく別けて環境心理学、社会学、臨床心理学および人間工学の4つの分野がある。演習IIではそれぞれの分野を選択し学ぶが、演習Iでは上記の4分野全てについて、基本的な考え方および研究の方法論を学習する。

演習は20名前後を一つの班とし、8つの班に分かれて行われる。各分野について4回程度を以下の各担当者について学ぶことになる。各班共通の授業もあるので注意すること。また、演習Iは2コマ連続の授業となる。

担当者

環境心理学 佐古順彦 野嶋栄一郎

社会学 蔵持不三也 吉村正 谷川章雄

臨床心理学 門前進 菅野純

人間工学 石田敏郎 宮崎正己

演 習 II（比較文化論＜文化の位相＞） 4単位

蔵 持 不三也

前期では文化人類学から提起されたさまざまなキー概念を、レヴィニストロースの『野生の思考』などに沿って分析・検討し、人間と社会との根源的な関わりを追究する。後期では佐渡羽茂村で現地調査を行う予定。そこでは社会構造（生業・労働・親縁関係・交通など）と生活構造（祝祭・物流・生死観・暦など）とが主たる対象となるが、この一連の作業によって日本文化の特徴の一端を探り、ヨーロッパの村落文化との差異、およびそうした差異を生じさせた要因といったものを比較してみたい。また、フィールド・ワークで収集した各種の資料のドキュメンテーションや、調査報告書の作成も予定されている。

演 習 II（高齢者を含む福祉援助） 4単位

岡 野 静 二

高齢者問題と心身障害者の問題が、ボランティア活動の中で重要な位置をしめることはたしかである。そのために、それに関する文献をしらべ、同時に高齢者及び心身障害者のところへ出掛け、調査をすることにする。そのことによって問題点や課題が

各人の中にたしかなものとして生まれたら、日本における高齢者問題と心身障害者の問題を、個人の行動と組織の力でつまりボランティア活動として、なにができるかを考える。

演 習 II (催眠を中心とした心理療法) 4単位 門 前 進

臨床実験研究的内容と、臨床実践を2本の柱として、演習を行っていく。

臨床実験としては、まず基礎実験の技法の習得、データ処理のための統計手法の習得などである。さらに、催眠現象、臨床心理現象に関係する実験論文、調査論文、書籍を各自が探してきて、それを紹介していく。これらを通して、各自の卒業研究に向けての実験計画、調査計画、文献研究計画などを組み立てていくことを目標とする。催眠的臨床心理に関係するものには、リラックス、イメージ、暗示現象、葛藤、情動に関係するものなどが含まれる。臨床実践についてとしては、催眠的技法、臨床実験に関する文献講読を中心として行う。

演 習 II (健康とレクリエーション) 4単位 吉 村 正

本演習では、下記の4項目について学習する。

1. Therapeutic Recreation では、医師、看護婦、ケースワーカーやアレルギー患者たちと、サマーキャンプを行い、24時間診療を試みる。春に病院見学、秋に治療レクリエーションを行う。(医療スタッフからの特別講義も予定している。)
2. Outdoor Recreation では、都会の雑踏から離れ、自然に触れ、Recreation(再創造)活動と学習を行いながら、人間の健康やレクリエーションについて考える。
3. Recreation Education では、レク活動やレジャー活動を通して、豊かに創造力(creation)を養う学習を行う。
4. 健康やレクリエーションに関する文献の講読、レジュメの作成、発表などを行う。それらを通して、人間の健康や、レクリエーション活動や指導法を正しく理解する学習も行う。

演 習 II (発達と環境) 4単位 山 本 多喜司

私たちをとりまく環境には、自然や建造物のような物理的環境、対人関係を中心とする社会的環境およびルールや習慣などの社会文化的環境がある。これらの環境の認知や評価は認知したり、評価したりする人の年齢や職業などによって異なるし、また、その環境に慣れているかどうかによっても異なる。人間と環境との相互交流を、主として個体発達と微視発生的発達の観点から考察する。具体的には子ども部屋、家屋の住み心地の研究、キャンパスや都市の認知地図の作成と分析、公園・町並み・自然景観の評価、アメニティの概念の分析、子どもの対人関係・人間関係の拡大過程の分析、サークルの雰囲気や学風のSD法による分析、環境差が発達に及ぼす影響の研究など

をする。前期はそれぞれのテーマに該当する代表的論文を呼んで討論し、科学研究方法をマスターする。後期は各自のテーマを決め研究の計画書をつくり、調査・実験を行ない結果を論文としてまとめる。

演 習 II (社会開発論<地域社会における住民運動>) 4単位

店 田 廣 文

住民運動はひと頃に比べると社会の耳目を集めるといった点では大きく後退した感
は否めない。しかしこれは地域社会に運動の対象となりうる問題等が減少したのでは
なく、従来の公害などの謂わば直接的な生活妨害問題といった狭い領域からより対象
が広がり運動そのものが多様化し質的变化をとげたためといえよう。本演習では社会
開発に関わるまちづくり運動や住民運動を共通テーマとして取りあげ、演習参加者
各々がサブテーマを分担して全員参加の社会調査を実施するこれを軸として、研究発
表・レポート作成さらに卒業研究の指導をおこなう。なお参加者は社会調査法上を受
講することが望ましい(平成3年度休講)

演 習 II (人間工学) 4単位

石 田 敏 郎

オフィスオートメーションの発展に伴い労働現場ではVDT作業など、視覚情報処
理作業が増大してきた。その結果、視覚的疲労や、局所筋負担などが新たな産業疲労
として、人間工学の重要な課題となっている。本演習では、この問題を核として、人
間工学を学ぶ上で基本となる種々の測定手法およびデータ解析手法についての実習を
行なう。実習項目の主なものは、人体計測、動作域、照明と明るさ感、人間の情報処
理、生体情報処理などである。また、実習レポートとその発表が参加者に義務づけら
れるが、そのほかに、自主調査テーマの報告が求められる。

演 習 II (人間工学<生活の場の人間工学>) 4単位 野 呂 影 男

人間工学とくに、生活のなかで必要とされる人間工学について演習をおこなう。前
期は、オフィス・デザイン・医療看護・家庭などで必要とする人間工学について、班
に分かれて演習を行う。後期は、いくつかの課題を選択して、演習をおこなう。高度
の数学は必要ない。環境・臨床心理学あるいは社会学の知識が活用される。

演 習 II (人間行動と環境(医)) 4単位

黒 田 勲

各種作業環境下における人間行動の認知科学的モデルとその影響要因について検討
を加える。認知モデルを用いてワークロードの評価、タスクの流れの解析と評価、人
的信頼性の定量的評価を行う。さらに現場作業における人的過談のメカニズム、マン・
マシン・インターフェイスにおける認知科学的評価について演習を行なう。

演 習 II (学校カウンセリング) 4 単位

小 泉 英 二

この演習では、1)学校カウンセリングの組織と体制、方法、学校カウンセラーの役割、現状と問題、2)相談の専門機関としての教育センターや児童相談所の機能と役割、3)両者の連携上の諸問題について学習すると共に、主要な相談技法、たとえばカウンセリング、遊戯療法、ケーススタディーなどについて演習する。また、教育研究所、教育センターの相談部門や児童相談所を分担して訪問し、それぞれの業務の特色やサービスの差異などについて比較研究も試みる。後半においては、各自の研究テーマを定めて論文にまとめる演習も行いたい。

演 習 II (教育工学<教育工学と教育心理学>) 4 単位 野 嶋 栄一郎

教育心理学と教育工学の関係は、基礎と応用の関係にある。基礎的な研究は実験、調査を、応用的研究は開発を主たる研究方法とする。研究の対象は、教育という枠組の中での人間の行動、教育環境、およびそれらの相互作用である。

前半は資料講読、後半は調査・実験の班別の演習を行なう。カバーする領域は、メディアと認知、教育環境と行動、教育測定と教育評価、タスクアナリシス、プログラム学習と指導法、適性と指導法、等々である。

演 習 II (行動療法) 4 単位

坂 野 雄 二

前半は、「心理学研究」誌、「教育心理学研究」誌、「行動療法研究」誌、“Behavior Therapy” 誌、“Behaviour Research and Therapy” 誌等に発表された論文や症例報告の講読を中心にして、行動療法の実際について、実験臨床とケーススタディの両面から演習を行う。「行動療法Ⅰ」および「行動療法Ⅱ」において学習した基礎的事項を実際の臨床場面において応用できるよう学習を行う。後半には、臨床の基礎研究として、不安、神経症、ストレス、抑うつ、児童生徒の学習や問題行動等に関わる諸要因(人格変数、環境、対人関係等)の検討を実験もしくは調査によって行う予定である。

演 習 II (人間の機能の測定法) 4 単位

宮 崎 正 己

本演習では、積極的な健康へのアプローチとしての身体活動、あるいは、疲労に至るまでの、人の生体反応を観察することを中心におこなう予定である。

実施項目としては、身体の構造として、形態、皮下脂肪厚、身体組成、姿勢、重心などの計測をおこなう。また、身体の機能からは、各種エルゴメトリー、心電図、心拍数、血圧、体温、人が発揮する力、筋電図、反応時間、反射、神経伝導速度等の測定をおこなう。

いずれも、実習が中心となり、おたがいが検者、被検者としての役割を果たしてもらうことになる。それぞれの項目が終了するごとに、レポートの提出をおこなう。文

献抄読もあわせておこなう予定である。

演 習 II (環境心理学<教育環境>) 4単位 相 馬 一 郎

環境心理学の対象は広範囲にわたる。ここでは人間行動について考えていく。前半は文献を後半は各自の計画を立て、調査・実験をおこない、その結果を報告する。できれば、それを卒業研究につなげていく。

演 習 II (環境認知) 4単位 佐 古 順 彦

環境と行動の関連を、認知作用の観点から分析する研究を概観する。

まず、基礎的な「環境－行動」研究について、行動の実行のために組織される空間認知として認知地図 (cognitive maps) , 場所が行動に及ぼす強制効果に言及する行動場面 (behavior setting) , 場所への親近感による愛着としての場所の同一視 (place identification) , 環境の諸側面についての選好 (preference) とパーソナリティー (personality) , 比較的長期的な行動の基盤となる個人目標としてのパーソナル・プロジェクト (personal projects) , 等の環境－行動分析法について学習する。

また、現代の生態的環境問題 (commons dilemmas や social traps) や環境ハザード (environmental hazards, 危険, リスク) といった人間の生存と密接に関係する環境の認知的評価の研究についても学習する。

以上の研究法と関係づけて各人の研究テーマを設定し、予備的な研究を行うものとする。

演 習 II (発達と臨床) 4単位 菅 野 純

この演習では、乳幼児期から青年期までの成長の“つまづき”を、発達および臨床的視点から学んでいく。

人間発達の各理論、発達の障害、精神の病理、精神発達の理解の方法、教育治療の方法などについて、演習を行っていく。

専門教育科目 (人間健康科学科 選択)

産業・職業社会学 4単位

安 藤 喜久雄

産業・職業社会学の諸分野——企業組織、労働者意識、労働組合、労使関係、産業と社会、職業など——について、これまでの研究成果をふまえながら、各々の現状と課題について講述する。これらを通じて現代産業社会における人間の生き方を探ってみたい。

〔教科書〕：『産業と組織の社会学』安藤喜久雄・田草川僚一著、学文社刊

生活構造論 I 2単位

池 岡 義 孝

「ゆらぎ」とか「ファジー」という言葉がもてはやされている。社会にかんしていえば、これらの言葉は価値観の多様化や生活様式の個性化が進んで、人びとの活動が読みとりにくい社会になってきたことを表現している。この見えにくい現代社会に生きる人間を把握するために、従来の社会構造概念にかえて、「生活」をキーワードとする「生活構造」研究が注目を集めるようになってきた。

本講では、生活構造論の基本的な考え方を紹介するとともに、ライフスタイル研究、社会的ネットワーク研究、ライフコース研究など、生活構造研究と連動する新たな研究の展開についても取り上げ、最終的には人間の生涯発達を生活構造の変動過程としてとらえる視点を提示したい。テキストはとくに使用せず、参考文献は教場でその都度指示する。

生活構造論 II 2単位

柿 崎 京 一

「生活構造論 I」の講義をうけて、本講では、与えられ表題の「構造論」や「システム論」的立場にとらわれず、人間の具体的な日常経験からアプローチしてみたい。つまり、人間は、時間や空間の概念、あるいは因果の観念などをとおして、象徴的・意味的に構成した世界（現実）に生きている。ということは、人間によって認知され、解釈され、意味づけられた環境が人間にとっての世界であり、現実であるということである。したがって、人間の生活行為を、客観的、構造決定論的分析の対象とする立場ではなく、生活行為者の主観と能動性を重視する「日常生活」、「生活世界」の視点から、人間の存在、生活について考えてみることを課題としたい。

はじめに、社会学においてこうした視点の提起されてきた背景と、その主要な理論について解説し、そのあとで具体的事例について紹介する。

社会運動論 2単位 (本年度休講)

濱 口 晴 彦

社会運動を社会問題解決の集会的志向としてとらえ、それらの事例をふまえながら次のような柱を立て講述する。

1. 社会運動の意識化
2. 社会運動の構造化
3. 社会運動の組織化

〔教科書〕：『社会運動の組織化』（早大出版部刊）

社会意識論 2単位

北 村 実

社会意識とは、ある特定の社会に典型的な見解、信念、理論、価値、規範などの総称であって、明確なイデオロギーの形態をとるものから、漠然とした社会的感情・気分として表象されるような社会心理まで含まれる。したがって、どの側面を取り上げるかによって、かなりの違いが生じるが、この講義では、主として道徳的価値意識に焦点をしぼって論じてみたい。

社会調査法Ⅰ 2単位

池 岡 義 孝

本講の目的は、特定の社会現象を解明するために定められたデータ収集とデータ分析の科学的方法である社会調査法の基本的な考え方と技法を修得することである。取り上げる課題の主たるものは、①社会調査の目的と全体の流れ、②標本調査の考え方と標本抽出の方法、③質問文と調査票の作成、④調査データの解析法と統計的検定を予定している。これらのことを通して最終的には、各人が各人の関心テーマに応じた調査計画 research proposal を作成できるようにしたい。

社会調査法Ⅱ 2単位

野 嶋 栄一郎

(1)測定的基础理論、(2)測定の信頼性と妥当性、(3)調査票の設計、(4)標本抽出と標本調査法、(5)データ解析(回帰分析、判別分析、因子分析、数量化理論)、(6)行動科学における理論化とモデル構成のうち、3～4個のテーマをとりあげ解説する。

使用教科書『調査の技術』浅井晃著（日科技連）

『テストの信頼性と妥当性』カーマイン&シェラー

（水野銅司、野嶋栄一郎訳）朝倉書店

社会開発論 2単位

矢 野 敬 生

社会開発の理論よりも、むしろ現実に生起する開発の問題をとりあげて論ずるつもりである。ことに、地理的には近くにありながらも、私たちにとっては未知でかつ無知でもある東南アジア諸社会の現実を素材として、社会開発のプロセスとそれとともにあって引き起される第三世界の諸問題に集点をあて、同時に私たちとのかかわりにつ

いても考えてみたい。

コミュニケーション論 2単位

臼井恒夫

コミュニケーションといえば、通常それは思想の伝達ないし交換を意味し、あるいは思想の交換にもとづき成立する一定の社会関係を意味している。したがって社会学的立場からのアプローチでは、記号過程論よりも社会関係論としてのコミュニケーション論に比重がおかれることになる。本講では、「社会変動とコミュニケーション」というテーマを設定して、現代社会をとりまくさまざまなコミュニケーション状況に言及してみたい。

余暇論 2単位

長田攻一

「余暇」という概念は、もともと残余的な意味合いが強いものであるが、その社会的意味は社会の歴史とともに変化してきた。本講では、余暇の文明史的意味の変遷を俯瞰するとともに、脱工業化社会と呼ばれる今日の社会において、余暇がどのような意味を帯び、われわれに対してどのような対応を迫りつつあるのかについて考えてみたい。参考文献などは、教場でその都度指示する。

教育心理学Ⅱ 2単位

野嶋栄一郎

教授(instruction)=学習(learning)=評価(evaluation)の3つのプロセスを中心に授業を進める。教育の科学研究を志向した時、教育心理学は従来の教育心理学の枠からはみ出ることがある。このはみ出る部分を大事にしたい。

環境心理学Ⅰ 2単位

佐古順彦

環境心理学の研究分野を概観する。環境心理学の考え方、環境と個人の心理(環境の知覚、環境の心理的評価、環境とパーソナリティ)、環境と社会的相互作用の心理(空間や場所における人間関係)、そして物理的社会的環境と人間行動の心理(住居や地域や公共の環境における諸問題)についての基礎的な研究を紹介する。

造形心理学 2単位

佐古順彦

人々のさまざまな生活場面に存在する形作られたものについての人間の知覚、感情、行動の研究を概観する。形や色彩などのものの属性の知覚、空間と運動の知覚、美や愛着等の感情や心理的評価、ものとパーソナリティの関係について考えてみる。また、さまざまな造形物についての心理的反応の測定法についても解説し、試行してみたい。

組織心理学 2単位

松本芳之

組織心理学とは、産業心理学の中で、特に集団や社会体系に強調をおいたものであ

る。こうした理解が必要であるのは、組織に属する人々の様態が、結局、組織のあり方に依存するからである。しかし、組織心理学の目的は、個人の理解にとどまるものではない。組織活動を営む中で、独自の問題が生じる。これらの問題の理解こそ、組織心理学の目的とすることこそなのである。組織についてのさまざまな理論や研究方法は、こうした困難を扱う中で生みだされたものである。そこで、本講義では、それらの問題を振り返りながら、組織に対するいくつかの捉え方を検討するとともに、現在の我々にとっての問題点を考えて行きたい。

テキストは使用しない。参考図書については、講義の中で紹介し、また、資料は適宜配布することとする。

人間行動と環境 (医) I 2単位

黒田 勲

人間が置かれた生活環境について、異常環境下における人間行動から逆に地上環境での行動に与える基本的原理を考えてみる。

酸素および圧力についての地球史的観点から生物行動の推移について検討する。空間および時間環境については、リズム、時差、単調の問題、温度、湿度の特殊作業環境、重力および加速度に関する生体反応、光、騒音、衝撃、振動等の物理環境下での人間行動、放射能、一般の中毒物質についての行動変容とパフォーマンスの限界、さらに人間社会環境条件が行動に及ぼす影響の原則について講義する。

人間行動と環境 (医) II 2単位

黒田 勲

生活環境における健康、作業環境におけるパフォーマンスに影響する因子について、仕事、仕事環境、人間関係、これらの管理を含めた外的要因、心理的および生理的ストレスサー、個人特性による内的要因、人間-機械インターフェイス、自動化等、安全人間工学の総合的観点から検討を加える。さらに緊急事態、強度ストレス環境、航空宇宙環境等の特異環境における人間行動を含めて講義する。

心理検査法 I 2単位

富田 正利

人格の評価法として最も一般的な質問紙法について概観し、その代表的なものについて、体験を通して理解を図る。質問紙法とは人格に関わりのある、人間の行動や考えなどの叙述の目録を作り、これが個人に該当するかどうかをチェックさせることによって人格を知ろうとする方法であり、ここでは MMPI, CPI などを取り上げる。

心理検査法 II 2単位

富田 正利

質問紙法に対置する人格評価法として広く利用されている、ロールシャッハ、TAT などの投影法について概説し、2, 3の方法について実習をまじえて紹介する。投影法は多義的な刺激に対する反応を、身につけた分類法の知識に照らして分析せねばな

らないので、その実施に当たって既にその方法に通暁していなくなくてはならない。したがって、実習がかなりの部分を占めるであろう。

行 動 検 査 法 2単位

坂 野 雄 二

人間の行動や情動（生理的反応を含む）を客観的に査定するための方法論や実験計画法、統計的处理等について、その基礎理論と実際について概説を行う。また、代表的な行動検査法に関しては、その実施と評価の方法について実習も併せて行いたい。

行 動 療 法 I 2単位

坂 野 雄 二

学習心理学の原理を人間の情動や行動の変容に応用した治療技法体系が行動療法である。本講では、行動療法の原理、歴史、代表的な技法について概説を行い、行動療法の概略を把握するとともに、行動療法による臨床の基礎的な知識を習得する。使用する教科書および参考書は追って連絡する。

行 動 療 法 II 2単位

坂 野 雄 二

行動療法の最近の動向である「認知的行動療法」の基礎と応用について概説するとともに、症例研究を通して、行動療法における「言語の機能」について論究する。また、行動療法の基礎となる「実験臨床心理学」の方法論について講義を行う。本講の受講者は、「行動療法 I」を受講していることが望ましい。テキストおよび参考書は追って指示する。

心 理 療 法 I 2単位

門 前 進

心理的な悩みを解決するために、心理療法が現実には用いられている。基本は人間理解である。現実にはさまざまな心理療法が行われているが、それぞれの心理療法にはそれぞれの人間理解の仕方がある。しかし、かなりの心理療法の人間理解の仕方には、多かれ少なかれ精神分析の考え方が入っている。それ故、精神分析的立場からの人間理解、悩みの理解について、考えていく。

それに続いて、伝統的な精神分析の方法ではなく、精神分析的な立場でのカウンセリングの方法である簡易分析の方法について、考えていく。

心 理 療 法 II 2単位

門 前 進

心理療法 I の内容は、精神分析的考え方を基礎としたカウンセリングの方法である簡易分析であるが、心理療法 II の内容は、イメージ療法を中心に据える予定である。心理学研究、心理療法の実践において、最近特にイメージに対する関心が高まってきている。そこで、この授業では、さまざまなイメージを用いた心理療法について、考えていく。

学校カウンセリング 2単位

菅 野 純

子ども時代に生じる様々な障害（精神遅滞，自閉症 etc.）と“つまずき”（登校拒否，非行，無気力，ノイローゼ，自殺 etc.）の事例をもとに，(1)子どもの行動の理解の方法，(2)子どもの障害や“つまずき”への援助の方法について講義する。

比較文化論 2単位

蔵 持 不三也

ひとつの文化的事象には，つねにそれを成立させる技術や知識，伝統，展望，関連性といったコンテクストが伴う。こうした事象から構成される《文化》をとらえるのは，したがってかなりの困難を覚えるものであるが，本講では，エミール・バンヴェニストの不朽の名著『インド＝ヨーロッパ諸制度語彙集』をテキストとし，王権や法，宗教を巡る彼我の文化のアイデンティティを追求し，さらに歴史の浅い比較文化の学問的有効性などについても考えていきたい。

栄養学Ⅱ 2単位

太 田 富貴雄

栄養素が不足したり量的に著しく不均衡な食事を長期間摂り続けると，発育期における成長・発達が害なわれるだけでなく，成人後でも新陳代謝や生理機能が障害されてさまざまな疾病をひき起す。本講義では，幼児期から老年期までの各年代における生理的特長と栄養摂取のあり方，栄養素の過不足による病気の特徴と治療食，成人病といわれる糖尿病・高血圧・心臓病などの病態と予防・治療のための食生活，感染性およびアレルギー性の疾患と食事の関係，および健康・体力の水準を高め長寿を享受する栄養上の留意点などについて述べる。なお，栄養学Ⅱの聴講にあたってはあらかじめ栄養学Ⅰを受講しておくことが望ましい。

人間工学Ⅱ 2単位

野 呂 影 勇

人間工学とは，使いやすさ，快適性を実現する科学であるとの考えにたち，事例の紹介を中心に講義を進める。講義項目：看護，トイレと台所，椅子，家庭電化製品，乗用車，テレビ会議，仮想現実空間等
テキスト別途通知する。

特論Ⅲ（法と社会と倫理） 2単位

木 村 利 人

本セミナーでは，現代社会における法の役割に焦点を合わせつつ，医学，健康，生物医学をめぐる具体的なバイオエシックスの事例（判例・立法・法案など）をとりあげ研究，調査し学習する。今年度は，人間遺伝子解析にともなう倫理と法の問題をはじめ，「生命権」めぐる様々な問題を取りあげる。

特論 IV (生理機能と行動) 2単位

井 上 宏 子

我々は外界からの情報を検知し、処理し、その結果に従って行動している。摂食・生殖など生きてゆくために必須の行動から、学習・記憶、更には情動など、いわゆる高次機能と呼ばれる複雑な対応まで、脳のレベルで解明が進んできている。

そこで本講義では外界からとり入れられた視覚・聴覚などの諸情報が、どのように脳で処理され、そして運動系へと伝達されてゆくのかについて、神経情報やホルモン情報の伝達といった立場から議論を展開する。

したがって、人間工学、行動医学などに興味を有する学生はもちろん、健康と運動や、環境と行動といった分野に興味を有する学生の聴講を歓迎する。

専門教育科目 (スポーツ科学科 必修)

スポーツ科学概論 4単位

山崎 勝男 他

スポーツ科学の入門として当該授業を実施する。諸君が2年次以降に選択履修することになる演習担当者14名が、それぞれの専門領域に従って講義する。講義の内容は、自然科学領域として：スポーツ心理学、精神生理学、身体運動の生理学、衛生学・公衆衛生学、スポーツ工学、バイオメカニクス、栄養生理学、運動学、体力科学と運動処方、体格・体力トレーニング：人文社会科学の領域として：スポーツ民族学、スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツ法学を予定しており、非常にスペクトルの広いスポーツ科学の概論となろう。この授業は2年次以降、専門必修科目に配当されている演習（Ⅰ，ⅡAB）を履修する上で、必要不可欠な重要科目と位置づけられるものである。授業への出席日数不足は、2年次以降の演習選択に支障が生じることを心されたい。

スポーツ社会学 2単位

宮内 孝知

スポーツは現代社会において極めて大きな、かつ、重要な意味を持つ社会現象である。それは一つの文化として大きな勢力を持っているばかりでなく、政治や経済と密接な関係にあり、それに社会学的理解の必要性和意義がある。本講義では、スポーツの社会的な意味と価値、その機能などについての基礎的理解を得ることをねらいとしている。

〔教科書〕：『スポーツ社会講義』（大修館）

スポーツ情報論 2単位

中条 一雄

情報化時代の今日、一瞬にして世界を駆けめぐる大量の情報に、スポーツ界は大きな影響を受けている。スポーツに対する選手や大衆の考え方、世間の目も、めまぐるしく変化しつつある。スポーツと情報のかかわり合いを、次のような網目で追及してゆきたい。

- 1 スポーツの発達と情報の大切さ
- 2 真実とは何か。見る目の大切さ
- 3 情報と商業主義・企業
- 4 情報とプロ・アマ問題
- 5 情報と政治権力。言論の自由
- 6 ニュースと解説・評論

- 7 情報の分析と利用・新聞の読み方
- 8 情報の分析の実例
- 9 わかり易い情報とそのまとめ方
- 10 情報としての体育学

スポーツ文化論 2単位

寒 川 恒 夫

スポーツを文化の問題として論じるために、以下の諸項目について講義をおこなう。

1. 文化の概念。
2. スポーツの概念。
3. 遊戯、ゲーム、体育、身体文化などスポーツと関連する諸概念とこれらの諸概念間の関係。
4. 未開・伝統的社会と現代社会における、全体文化とスポーツ文化要素（あるいはスポーツ文化複合）の關係の諸相。

〔教科書〕：『スポーツ人類学入門』（ブランチャード、チャスカ共著、大修館書店）

スポーツ経営学I 2単位

梅 澤 宣 雄

スポーツ経営学とは何か。その意義と、理論体系について、組織論、経営過程論、行動科学等に依拠しながら概説する。

社 会 調 査 4単位

宮 内 孝 知

寒 川 恒 夫

国・地方公共団体・企業などが、政策を決定するためには、国民や消費者などのニーズを把握する必要がある。

社会調査は、この世論や消費傾向などを探るための手段である。本講座では、調査課題と仮説の設定、統計的調査法、事例的調査法、などの理論を学習するほか、典型的な政治に関する世論調査、商品開発のための、いわゆるマーケット・リサーチなどのケースを取りあげて、実践をも学ぶ。

スポーツ心理学 2単位

上 田 雅 夫

スポーツ心理学の学問としての体系づけには、いくつかの立場がある。本講義では、心理学の科学的方法によって体育・スポーツ事象の諸問題がいかにとらえられるかを究明する立場をとっていきたい。主な問題領域としてはつぎのものを予定している。

- 1) スポーツ行動の本質、2) 運動・競技の適性、3) トレーニングの諸問題、4) 競技力について、5) 緊張異常とその対策。

バイオメカニクス 2単位

永 田 晟

多くの基本運動とスポーツ活動を工学，整形外科学，解剖学，生理学的な面から考究し，それぞれの運動メカニズムを講義する。運動現象の機構をわかり易く詳講し，運動方程式の演習をしながら実証する。バイオメカニクス上の基本用語を熟知し，スポーツ科学のスペシャリストとしての生体機構上の知識を学習する。

- (1) 基本運動の分類と人体解剖図
- (2) スポーツ活動時の骨・筋・靱帯，神経，血液の働き
- (3) バイオメカニクスの研究方法
- (4) 運動神経機構と神経支配（運動生理学）
- (5) キネテックスな解析例（運動力学）
- (6) キネマテックスな解析例（測定計量学）
- (7) 動きのエネルギー効率と競技力の向上
- (8) バイオ・フィードバックの応用（制御工学）
- (9) パワーの出し方と使い方
- (10) 各種運動方程式と生体工学の基礎
- (11) 周波数分析とフーリエ展開

〔教科書〕：『バイオ・キネテックス』（杏林書院）

体力トレーニング論 2単位

加 藤 清 忠

体力とは何かとの基本的な理解の上に，体力養成ムーブメントの歴史的背景や現況に触れるとともに，体力の維持と向上に必要なトレーニングの原則や具体的な方法について解説する。実技実習ではウェイトトレーニングやサーキットトレーニングを中心に行なう。したがって，一般的にバーベルやダンベルを用いたトレーニングを行うが，必要に応じマシンによるトレーニングをも実施したい。また体力測定を最初に行なう。

テキスト：『トレーニングマニュアル』（前野書店）

演 習 I（スポーツ心理学） 4単位

児 玉 昌 久

スポーツ心理学は，スポーツ活動に関して基礎科学である心理学を適用，実践していく科学領域である。そこでは，直接，間接を問わずスポーツに関わる人間の行動の全てが対象となりうる。

課題に対する取り組み方はきわめて自然科学的であり，思考法，発想法も，自然科学的な態度が要求される。

スポーツ心理学の研究を進めて行くために必要となる，心理学的思考法の理解を深めるため，研究方法を課題の中心にする。

トピックスは心理学の主要研究領域である学習，知覚・認知，動機・欲求，人格，

情動，更に社会心理，臨床心理などにわたり，観察，検査，実験など諸方法の実験計画法，測定方法，資料解析法について行うため，また，課題ごとのレポートや発表が課せられるため，かなり負担が大きくなることが予想される。

文献の輪読と実験実習とを併行していくが，特に後者の比重が大きいため，授業への参加が重視される。精神生理学的測定法のマスターが必要なので，「精神生理学及び実習」（山崎教授）を履修していると大いに役立つであろう。「測定・評価論」もこの演習を行って行く上で大変重要な意味をもっている。

演 習 I（精神生理学・心と身体のスポーツ科学）4単位 山 崎 勝 男

プレッシャーを感じ過ぎると緊張して体は硬直し，喉はカラカラ，心臓はドキドキ，手掌にじっとりと汗をかく，いわゆる上がりの現象が生じる。このようなときに良い競技成績をあげることは期待出来ない。スポーツ科学における精神生理学：心と身体の因果関係を解明する学問は心理的なプレッシャーに対して，どのような身体の変化が生じるかを客観的に調べ上げると共に，過剰な身体変化の防止対策と最適な緊張水準へ自己コントロールする方策を明らかにして，現実場面への適用を示唆することである。授業では，心理学的な方法論とこの学問に関わる生理学的な方法論を含めた演習を中心に展開し，同時にこの学問に関連する内外の論文を輪読して，この学問をスポーツ科学的に位置づけたい。精神疲労，時差ボケ，睡眠，動機づけ，学習，性格等についても演習の課題としたい。

演 習 I（運動と代謝）4単位 村 岡 功

本演習では，運動生理学に関する専門書（英文）を輪読しながら，運動を生理学的に把握するとともに，運動生理学およびスポーツ生理学における基礎的な測定技術を習得する。

演 習 I（スポーツ人類学）4単位 寒 川 恒 夫

スポーツ人類学についての基礎的演習をおこなう。スポーツ人類学は，未開社会と伝統的社会（それに一部は現代社会）のスポーツ（遊戯，ダンス，ゲーム，運動競技などを包括する広義のスポーツ）を文化人類学（民族学，民俗学）の方法によって研究する分野である。本演習は第3年次演習のための基礎の性格を有するため，その主要目的は，日本と諸外国のエスニックススポーツとその文化的背景について幅広い知識を得ることに置かれている。この目的を達成するために演習は次の2つの方法によって進められる。1つは内外のスポーツ民族誌資料の講読と映像資料の分析であり，他の一つはフィールドワークの実習である。フィールドワークは特定村落に数日間宿泊して，その地に伝承されるエスニックススポーツの採録に当たるもので，採録は，当該スポーツの当該社会における文化的意味を解説すべく，文字とカメラ・ビデオ等映像

機器とによっておこなわれる。

演 習 I (スポーツ社会学演習) 4単位

宮 内 孝 知

スポーツ及び社会科学に関する文献をできるだけ広く講読し、スポーツの社会学的理解に必要な基本的態度や知識を高める。いわば、社会とスポーツの関係を様々な角度から検討しながら、「スポーツ社会学とは」という問題に、自分なりに解答を得られるようになることをねらいに演習をすすめることになる。

従って、幾つかのサブグループに分かれての検討・発表なども一つの方法であると考えている。

演 習 I (衛生学演習) 4単位

町 田 和 彦

将来、研究活動、国内・国外の保健活動（行政）および環境や健康科学を生かして、各種企業に進むことを希望する学生が、そのため最低限度の研究および活動の進め方（問題解決能力）と実験的技法を身につけられるようなトレーニングをおこなう。

前期は衛生学・公衆衛生学の解説、一太郎（ワープロ）、HALBAU（統計）を用いたパソコン実習を主とし、他に人体の構造と機能、動物の取り扱いと解剖実習等をおこない、後期は基礎的な実験方法の実習、血液学実習、尿中成分の分析等演習IIでおこなう実習の基礎実験を主におこなう。

本演習を希望する学生は選択科目の衛生学、公衆衛生学、学科共通選択科目も含め、できるかぎり多くの医学関連科目を履修することが望ましい。また、衛生学・公衆衛生学の内容は非常に多岐にわたり、演習IおよびIIで多種類の実習項目をおこなうことになるが、ここで出来る内容には限度があるため、将来、多少なりとも専門を生かした職業を希望する人の大学院進学を歓迎する。なお、演習Iは月曜3、4限を使っておこなう。選択にあたっては演習IIの内容を必ず良く読んで選択すること。

演 習 I (スポーツ工学) 4単位

比 企 静 雄

この演習では、まず、人間の運動機能に関係する体格・体力や動作の特性を観測・記録して分類・評価するための、多面的な測定方法を取り上げ、このために使われる計測機器・システムの動作原理と操作方法や、電子計算機の利用による、測定データの処理や画像解析や運動のシミュレーションのためのモデル化の手法などについて学習する。

このようなスポーツの工学的な研究の基本になるのは生体工学であるが、必然的に、人間の筋肉・神経系についての医学の分野での研究とも結び付いてくる。また、スポーツによって起きる障害のリハビリテーションも、重要な研究の対象になる。そこでこの演習では、スポーツ工学と並行して、リハビリテーション工学の立場から、人間の感覚機能・運動機能に一時的・長期的に起きる障害に注目して、障害の検査方法や、

機能の修復・代行の可能性や、機能回復のための訓練の効果などについて、種々な側面から取り上げる。

演 習 I (スポーツ経営学) 4単位

梅 澤 宣 雄

スポーツ経営学の基礎理論を理解することが出来るよう、先行論文・資料等に関する文献研究を中心に研究討議を行なう。特に、スポーツ経営学の基礎理論を；学校体育としてのスポーツ経営、地域や職場におけるスポーツ経営、商業スポーツ施設（スイミングクラブ、テニススクール、リゾートスポーツエリア等）の経営、競技スポーツの集団（チーム）の経営等の各領域にどのように活用したらよいか、という視点を常に意識しながら、より正確に、より深く理解できるようにする。また、経営調査（診断・評価）の技術を身につける上で必要な、基礎的準備についてもこの演習のもう一つの柱とする予定である。

なお、テキスト・参考書等については、授業の初めに指示する。

演 習 I (スポーツ法学演習) 4単位

濱 野 吉 生

この演習は、スポーツ法学の全体を把握するとともに、その研究手法を習得することを目的として進めていく。

したがって、授業の前半は、スポーツ法学そのものの理解に重点を置き、後半は、報告・討議を交えつつ、具体的な事例・判例を取り上げていきたいと考えている。

参考書等については、授業中に指示する。

演 習 I (バイオメカニクス) 4単位

鈴 木 秀 次

バイオメカニクスとは、生理学・解剖学・力学などの基礎知識を活用して身体運動の仕組みをより良く理解するための応用学である。巧みな運動、速い運動、強力な運動、自然な運動、効率の良い運動、美しい運動等の運動中の科学的根拠を見つけ出すことを目標とする。この演習ではI、IIを通じてその科学的根拠を見つけ出すための3つの基礎知識、すなわち、生理学、解剖学、力学をしっかりと学ばせたい。演習Iでは、主に、身体運動に係わる生理学、解剖学を、特に、骨格筋の構造と機能について、講義と実習をまじえて授業を進めて行く。

7月下旬に、高地における身体運動へのバイオメカニクスの影響についての体験実習を、そして11月下旬には他大学医学部への解剖学実習の見学を予定している。

演 習 I (栄養生理学) 4単位

太 田 富貴雄

本演習は、栄養学の基礎から応用に至る幅広い知識を、スポーツ活動や健康管理などの実践面に役立つよう実習を通じて身につけ、さらに食生活・栄養と体力、健康、疾病の関係についての卒論を作成する際に必要な技術および方法等を習得することを

目的にしている。具体的には、ビデオ、分子模型、配布資料を用いての基礎および応用栄養学に関する基本事項の解説、英文テキスト（スポーツ栄養学）の講読、パソコンによる食物調査をもとにした栄養診断と統計処理、計量器の取り扱いや規定液の調製など科学分析の基本操作法、を年次計画に基づき実施する。なお、受講生は栄養学ⅠおよびⅡの履修が望ましい。

演 習Ⅰ（運動学演習） 4単位

塚 協 伸 作

運動学（運動形態学）は、各種スポーツの運動形態（運動フォーム）の成立と変化に関して研究する学問である。各種スポーツ運動の技術の把握、そしてその習得・習熟、即ち荒削りのフォームから技術的に洗練されていく発展を通じて、その運動の特性を明確にしようとするものである。

このような運動学の立場から各種スポーツにおける運動特性、運動発達、運動類系、運動方法について理解することにはじまり、次のような順序で演習を行う。

1. 運動学に関する問題意識喚起のための話題提供とその討議を行う。
2. 国内外の文献収集とその講読を通じて現状を把握し、運動学的考察を行う。
3. 運動学的研究法の手順とその実践を行う。
4. 各自の運動学的研究課題設定への準備を行う。

演 習Ⅰ（体力科学と運動処方） 4単位

永 田 晟

スポーツ科学のうちの体力医学、運動学、健康診断学、運動処方学、スポーツ医学、生理人類学、コーチング学、スポーツ心理学などの基礎的な学問分野のベーシックな研究方法を教授し、オールラウンドな科学的で客観的な実験手法を学習する。この方法を学ぶためには実際に各種スポーツを実施し、運動が生体に与える効果と問題点を各自が体験し計測する必要がある。その後の実習室において動きを再現し、スポーツ刺激による生体応答や反応を科学的に記録し、処理する方法とアタックする態度を学んでいく。本演習では、実際に身体運動をおこない、実際にゲームをおこなって発汗する必要がある。

以下に代表的な演習項目を羅列する。

- 1) 日常生活行動（ADL）の観察と記録、2) ADL の可動範囲と生体解剖、3) エアロビックエクササイズの実施とその問題、4) 有酸素運動の生理機構、5) ラケット、バット・スポーツなどの用具と人間の整合性、6) 回内・回外運動などのスポーツ医学と障害、7) フィットネスの運動プログラム、8) 健康・体力レベルの測定・検査法、9) ランニングのプログラムと生活処方、10) 肥満の意味と水中体重法の測定、11) アクア・エクササイズの実施（流れるプール）、12) 密度・比重と血圧・心電図などの記録、13) 疲労とストレス解消法（積極的休息法）、14) スポーツ権と健康・体力づくりの方法。

演 習 I (体格・体力とトレーニング) 4 単位 加 藤 清 忠

本演習では、身体の形態や機能に関する理解を深めながら、トレーニング科学に基づいたトレーニングの指導理論や技術の学習を目標としたい。

したがって、まず前半では生体観察や生体計測を通じて体格・体型の学習を行ない、後半では体力測定法ならびにトレーニング指導法の実習を行ないたいと考えている。

おな、テキスト・参考書等については、授業中に指示する。

演 習 II A (スポーツ心理学) 2 単位 児 玉 昌 久

演習 I であつかった基礎的問題を発展させ、実践的に応用することを試みてゆく。運動学習、チームワーク、ストレス・マネージメント、イメージトレーニング、メンタル・リハーサル、コンディショニング、リラクセーションなどの、スポーツ場面におけるトピックスについて、その問題を構成する要因の分析と、そこに用いる方法の選択やその効果の測定方法など、モデル実験によって検討すると共に、種々の文献と比較研究する。特に後期には、前期の経験から発展した各自の興味の方向に沿って各個人のテーマを設定し、やがて卒業研究につなげられるような実験計画の立案を目指す。これらの過程では、実験レポートの作成及び発表が要求される。

演 習 II B (スポーツ心理学) 2 単位 児 玉 昌 久

4 年次の履修のため、卒業研究と平行して行うことになるため、課題は各自別々に、卒業研究に結び付く研究テーマを設定し、研究方法、実験デザイン等の検討、実験器具の操作の習得、結果の処理・分析方法の吟味、論文のまとめ方など、演習 I、演習 II A で行ってきたことのまとめを行い、科学的思考法を充分にマスターすることを目指す。

演習 II A・B (精神生理学・心と身体のスポーツ科学) 4 単位 山 崎 勝 男

「演習 I」で学習した基本的事項をさらに深く追及する。そしてこの研究領域の主要テーマに関する広範な文献研究を行い、現在の国際的な研究動向も同時に探ることを当演習の目的としたい。受講者は文献研究に参加して、文献紹介及び報告の役目を随時に担う。これらの経験を基礎として、受講者は各自の興味にしたがった実験研究計画を立案・企画し、受講者自らが実験者になって、比較的短期間の実験を行う。ここで得られた実験結果を各自が分析してレポートしてもらう。本演習は卒業論文研究の予備的な性格が濃い。当然真面目な受講態度が要求されよう。当演習でマスターした研究方法を基盤として、4 年次の卒業論文への発展、展開してもらいたいと考えている。

演習 II A・B (運動と代謝) 4単位

村 岡 功

「演習 I」の活動を基礎として、ここでは特にエネルギー出力に焦点を合わせ、その実験技術を演習する。また、継続して英文の輪読を行うが、「演習 II AB」では各自の卒論の研究テーマと関連の深い内外の論文を渉猟し、その内容を発表する。

演習 II A・B (スポーツ人類学) 4単位

寒 川 恒 夫

スポーツ人類学の理論についての演習をおこなう。一世紀の研究史をもつスポーツ人類学は、これまでに、進化論、伝播論、機能論、構造-機能論、解釈論、象徴論などさまざまな理論から接近された数多くの論文・著書を有している。本演習では、こうした論文・著書の講読を通して、スポーツ人類学の主要な諸理論について理解する。あわせて、卒業論文の作成に必要な研究方法についても学ぶ。フィールドワーク実習は第二年に引き続きおこなわれる。

演習 II A・B (スポーツ社会学演習) 4単位

宮 内 孝 知

内外のスポーツ社会学の論文を広く読みながら、スポーツの社会的理解を深めるとともに、基本的な研究方法の演習をする。また、この「演習 II A・B」を通じて、多岐にわたるスポーツ社会学の研究領域から、自分の研究テーマを具体化していくことも必要であろう。

〔参考書〕：『体育・スポーツ社会学研究』（道和書院）、『Sport and Social Theory』（HUMAN KINETICS）、SSJ、IRSS 所収の論文等

演習 II A・B (衛生学演習) 4単位

町 田 和 彦

演習 I で身につけた基礎的知識と実験手技をさらに充実させるとともに、研究能力の育成に重点をおく。前期は水質検査、空気の物理・化学的性質に関する実習、細菌学実習、ウイルス・免疫学実習等の実習を主に行う。

後期は、感染症の疫学のペーパーシミュレーション、栄養学実習、疲労・体力測定・代謝機能の測定等体力医学実習、組織培養細胞実習と各細胞に与える重金属の毒性実習を行った後11月後半より卒論について考えていく。

なお、演習 I、II A・Bとも各休み中（夏、冬、春）には衛生・公衆衛生関連テーマについての英文和訳と本の抄読のレポート提出をおこない。一層の理解を深めるとともに、実習の前にはそれぞれに関連した話題について、ビデオ又はスライドを中心とした講義をおこなう。なお演習 II A・Bは月曜10:00 から3時限迄（時には4時限迄）かかることが多いので3時限、4時限の科目や活動をさけることを希望する。

演習 II A・B (スポーツ工学) 4単位

比 企 静 雄

演習 I の内容を継続するが、生体工学の手法を底流としたこれらのスポーツやリハ

ビリテーションの学際的な研究の過程で浮び上がってくる周辺の分野での研究課題、とくに、障害を補うための視覚・聴覚・触覚の併用や、人工の視覚・聴覚のような新しい感覚の活用や、人工の音声や、指文字・手話などの代償的な言語などのような、人間の感覚を通じての情報処理の本質に触れる多くの問題も取り上げる。また、障害という特殊な対象に焦点を絞った研究の手法を、逆に正常な対象に拡張して適用することによって、感覚機能・運動機能の向上を計るという一般的な研究課題に還元できることにも注目する。

演習Ⅰ・ⅡA・Bを通して、このような範囲内で年度によって適当な項目を選んで、講義・実習・見学などを組合せて学習を進める。なお、所沢スポーツホールのリハビリテーション室でのスポーツ障害の検査と機能回復訓練のプログラムも、この演習に取り入れる。

演習Ⅱ A・B (スポーツ経営学) 4単位

梅澤 宣雄

スポーツ経営の実践領域である、学校、地域、職場、スポーツ施設等に関する経営学的研究に資料を求めながら、スポーツ経営の理論体系について学習することを基本的なねらいとする。同時に、演習Ⅰにおける学習をもふまえて、ここでは経営調査グループを組織して実際に調査を行う予定である。すなわち、目標の設定、調査計画の立案から、調査票の作成、調査の実施、結果の処理、まとめといった一連の具体的な作業が予定されている。さらに、このような経営調査(実態調査)と、スポーツ経営学の理論を高めたり、確かめたりするための研究との違いや、その関係についても十分な理解が得られるよう配慮する。そのことが、次年度の卒業論文への取り組みにとってたいへん重要であると考えるからである。

演習Ⅱ A・B (スポーツ法学演習) 4単位

濱野 吉生

この演習は、「演習Ⅰ」(スポーツ法学演習)を踏まえ、報告・討議を交えながら、スポーツ法学のより高度な理解と研究手法の習得を目的として進めていく。

参考書等について、授業中に指示する。

演習Ⅱ A・B (バイオメカニクス) 4単位

鈴木 秀次

演習Ⅰでの基礎知識に加え、ここでは身体運動の仕組みについて講義と実習によって説明する。前半は、運動と力の係わりについて講義中心で授業を進める。「運動」では、位置-速度-加速度、線運動と角運動、加速度と筋活動、歩様のキネマティクス、投射物体の運動等について、「力」では、ニュートンの運動の法則、外力の係わり、トルク等について講義する。

後半は身体運動の分析の方法について実習中心で授業を進め、卒業論文作成に結びつけた授業を行う。

テキストとして、Roger M.Enoka の Neuromechanical Basis of Kinesiology (Human Kinetics. 1988) を使用する。

演習 II A・B (栄養生理学) 4単位

太田 富貴雄

栄養生理学は、食物摂取や身体活動に伴う生体の代謝ないしは生理機能の変化と適応の仕組み、および栄養の摂り方が体力や疾病にどのような影響を与えるかを解明する学問である。本演習では、栄養生理学的立場からの調査・研究に必要な専門的知識と測定または化学分析の技術を習得し、更には卒論テーマの選定に役立つように、以下の項目について実習ないしは解説を行う。

中和および酸化還元滴定の原理と実験、食物タンパク質の定量、コレステロール・鉄など血液成分の比色定量、エネルギー消費量の測定原理と実測、食物成分の生理機能について、ラットを用いて調べる栄養実験、栄養とスポーツや健康に関する原著論文（主として外国雑誌）の講読と討論

演習 II A・B (運動学演習) 4単位

塚脇 伸作

「演習 I」(運動学演習)に引き続いて、一層の充実を図るために次のような演習を行う。

1. 各自の研究課題を設定し、そのための文献収集とその考察
2. 各自の研究課題に応じた研究法の実際による記述資料作成とその考察
3. 各自の研究課題の研究報告とその討議
4. 反省と卒業論文作成のための準備

演習 II A・B (体力科学と運動処方) 4単位

永田 晟

スポーツ科学は古典的な学問分量を基礎とした総合的な境界領域の人間科学の一つである。この観点に立ってスポーツ科学は人間生活にいかに関与し、役立つかの具体的な方法を教授する。スポーツ科学者としての資格と能力を陶冶できるように配慮し、スペシャリストとして成長することを期待した演習である。演習 I を基本として、応用科学をマスターする。他学問領域の研究手法も参考にしてカイロプラクテックスやマッサージなどの方法を実習する。

以下に代表的な演習項目を羅列する。

- 1) 加速度計による運動量の測定、2) カロリー消費量の計算と肥満対策、3) コンピュータ・オンライン・システムの作成（床反力など）、4) スポーツ・スピリットの分析、5) 運動負荷試験のやり方、6) メディカル・チェックの方法、7) 生体の電気的現象の記録（EOG, EMG, EEG, ECG, GSR など）、8) スポーツ姿勢と構え（重心軌跡）、9) 運動エネルギー示性式（三次元運動方程式）と 3 方向のビデオ写真解析、10) 生理的な限界と心理的な限界、11) トレーニング法と健康・運動処方、12)

スポーツ・マッサージとカイロプラクティス, 13) ウィンター・スポーツと障害予防, 14) 企業フィットネスとメディカル・フィットネス, 15) スポーツ障害の克服法と競技への復帰法, 16) ハンディキャップ者との交流 (養護実習)

専門教育科目 (スポーツ科学科 選択)

社会構造論 2単位

長 田 攻 一

社会構造は、一方で人びとの行為によって支えられながらも、地方では人びとの行為を水路づけるという意味で、個人やその行為に還元されない独自の存在である。それは通常、役割、集団、制度、階層、体制などの諸レベルにおいて把握され、それら相互の関係や変動の要因およびメカニズムなどが社会学の重要なテーマとなっている。

本講では、集団構成や階層などにとくに注目しながら、現代社会の構造的特質について考察してみたい。参考文献などは、教場にてその都度指示する。

スポーツ経営学Ⅱ 2単位

梅 澤 宣 雄

「スポーツ経営学Ⅰ」が、経営理論全般に亘る概論であるのに対し、この科目は、専ら学校におけるスポーツ経営（体育経営・管理）の問題に限定するものであり、いわば各論（領域論）の一つであるといえよう。従って、この科目を選択履修する者は、あらかじめ、「スポーツ経営学Ⅰ」を修了していることが望ましい。

コミュニティ論 2単位

岡 野 静 二

まずコミュニティとは何かを、基本的に理解する。そして日本にふさわしいコミュニティの概念を把握する。その概念にてらして、日本の過去の地域社会に存在していたが現在失っているもの、現在の地域社会で始めて得たものなどを考える。そしてコミュニティ形成に必要な条件とは何かを知る。行政の役割、住民運動、ボランティア活動などについて、現状を把握し、それらの意義と役割について明らかにする。

スポーツ法学 2単位

濱 野 吉 生

ここではまず、スポーツ法学の基礎理論と構造について説明し、次に、スポーツ法学が直面している具体的な問題を適宜取り上げていきたいと考えている。

参考書については、授業のはじめに指示する。

スポーツ行政論 2単位

深 川 長 郎

1. スポーツ行政のねらい・目的。2. 日本のスポーツ行政の現実。〈国および地方におけるスポーツ行政。〉3. 世界のスポーツ界の組織と行政的とのかわりについて。4. スポーツ関連の諸法規等と行政との関係について。5. オリンピック憲章、アジアオリンピック評議会憲章、国際大学スポーツ連盟憲章等とこれに関する行政に

ついて。6. ユネスコ等国際的諸期間のスポーツ行政への影響について。7. 将来のスポーツ界への行政的取り組みについて。以上の現実をふまえて考察を進める講義内容とする。

公衆衛生学(旧公衆衛生学Ⅰ) 2単位

町田和彦

衛生学の講義要項でのべたごとく、衛生学と公衆衛生学の区別は難しい。そこで公衆衛生学は衛生学で一応基礎的な衛生・公衆衛生学的な知識を身につけた学生が、実際に地域住民の中に入って保健指導をおこなううえでの重要な知識や方法論を身につけられるような講義内容をもつ。その意味では、公衆衛生学だけの選択はさけ、衛生学を必ず選択してほしい。

内容は、疫学、母子保健、成人保健、産業衛生、地域保健、人口問題、衛生統計、衛生行政、衛生法規等を予定している。

教科書は衛生学と同様、『簡明衛生公衆衛生』平成2年度改訂版(南山堂・菊地正一他)を使用する。

生理学 2単位

村岡功

生理学は極めて広い分野を包括する分野であり、ライフサイエンスの基礎学問の一つである。ここでは一般生理学入門コースを講義する。目や耳から入った情報がどのようにして脳に送られるのか? 脳から筋肉へどのようにして指令が送られるのか? 等の疑問に答えながら、生物としての人間、即ちヒトの生命活動の基本現象を捕えることとする。

衛生学 2単位

町田和彦

病気を治療する臨床医学に対し、病気を予防し、健康の維持増進をはかる学問として、衛生学、公衆衛生学がある。今日、この二つの学問は明確に区別できないが、歴史的過程からいって、日本では衛生学は環境衛生、感染症、栄養・体力医学等実験室内でおこなう研究が多いのに対し、公衆衛生学は地域医療の諸問題(母子保健、学校保健、成人保健、精神衛生、産業衛生等)や人口問題、衛生行政等、直接地域住民の中に入り、健康問題の改良にとりくむ研究が多い。しかし内容的にみてその両者を分けることは難しいため、本学の衛生学では、なるべく多くの衛生、公衆衛生学上の考え方や知識を身につけるため、衛生・公衆衛生の歴史、衛生・公衆衛生学(保健学)の医学の中に占める位置と重要性、環境衛生(公害を含む)、感染症、栄養学等を中心に講義を進めていく。

教科書は当分の間、『簡明衛生公衆衛生』(南山堂・菊地正一他)を使用するが、平成2年度より改訂版となったため、それ以前の本は使用できないので注意すること。

運動生理学 2単位 (91年度生必修となる)

村岡 功

運動と関連深い生理的機能は、主に運動を支配する神経系および内分泌系、運動を発現する骨格筋系、ならびに運動を持続する呼吸循環系である。

ここでは、これら生理的諸機能に焦点を合わせ、一過性の運動ならびにトレーニングによる影響について言及する。

なお、この科目を履修するにあたっては、前期に「生理学」を履修しておくことが望ましい。

運動制御論 (バイオメカニクスⅠから名称変更) 2単位 鈴木 秀次

目的にかなうように運動を調節する神経機構を運動制御機構という。合目的な運動を行うためには、中枢神経系から目的に応じた運動指令を発するとともに、運動の結果が中枢神経系にフィードバックされて、反射的に調節されることが必要である。ここではスポーツ活動での身体運動に係わる神経系の調節機構の基礎となる随意運動と反射運動について概説する。大半の授業は、脊髄・末梢神経レベルでの運動制御について説明する。

キーワード：アルファ運動ニューロン、運動単位、筋紡錘、感覚終末、伸張反射、ガンマ運動ニューロン、ガンマループ、アルファ・ガンマ共同活動、神経筋活動の可塑性。

身体形態学 (解剖学を含む) 2単位

加藤 清忠

ヒトのからだは「小宇宙」と言われるように、複雑で難解なものであるが、本講座では進化の道筋を通してからだの歴史を辿るという「原形形態論」の観点から、その理解を少しでも深めていきたいと思う。したがって、中心テーマとなる骨や筋の運動器官系も、上部形態論の一側面である、比較解剖学的立場から話しを進めることになる。また、ヒトの運動とか姿勢に関しても、からだの基本の構造や姿勢、ロコモーション等についての人間の特徴から概説していきたい。

リハビリテーション 2単位 (91年度は休講)

比企 静雄

人間の感覚機能や運動機能に一時的あるいは長期的に起きる障害に注目して、障害の検査・診断の手法や、機能の修復・代行の可能性や、機能回復訓練の効果について、基礎的な知識を解説し、障害の検査・診断に使われる機器や、機能の修復・代行のための補装具や、機能回復訓練のシステムなどについても、技術的な進展を紹介する。あわせて、リハビリテーションにおけるこれらの医療技術と障害者の教育環境や福祉体制との係わりについても、問題点を指摘する。(具体的に材料として取り上げるのは、視覚障害および聴覚障害だけになる予定である。)

なお、これらに先立って、リハビリテーションの基本的な理念についても、様々な

角度から検討してみる。

精神生理学及び実習 3単位

山崎 勝男

精神現象の生理学を実験実習を通して学習する。精神生理学で多用されている脳波、眼球運動、心拍、呼吸、脈波、皮膚電位活動、筋電図などのそれぞれの指標を、実習を通して解説しながら、まずはじめにこれらの生理的な指標の基本的測定法を完全に習得してもらう。次に当方で準備した実験手続書に従って実験実習を各自にしてもらう。半期集中型の授業なので、解説－実験実習－レポート提出のサイクルを数回くりかえすことになる。レポート提出毎に個人別講評を行う。実験実習が授業の中心をなすので、受講者には積極的な受講態度が要求されよう。実習のメインテーマは、生体リズムの観察、注意、定位反応と慣れの理解を考えている。スポーツ行動の背景をなす「心」と「身体」の接点に興味を持つ受講者を歓迎したい。

音楽理論・実習 2単位

大池 美智子

講義では、さまざまなジャンルの音楽に目を向け、広い視野からとらえた音楽と、スポーツやダンスとの関係について概説する。

実習では、次のような内容を予定している。

1. リズム・トレーニング
2. 鑑賞によるイメージ・トレーニング
3. レクリエーションのための合唱と合奏
4. やさしい打楽器の奏法と応用法
5. 動きのための「音」えらびと「音」づくり

学校保健Ⅰ 2単位

坂口 早苗

学校保健は、保健管理と保健教育に大別される。保健管理は、主に学校保健法にもとづいて行われる管理活動であり、保健教育は主として学校教育法にもとづく教育活動である。

講義内容は、 1. 学校保健概論 2. 保健診断 3. 学校伝染病 4. 学校環境基準 5. 学校安全 6. 保健教育（概要）である。

学校保健Ⅱ 2単位

坂口 早苗

児童・生徒・学生および幼児に多くみられる疾病異常の各論にふれ、また具体的な保健指導について講義していきたいと思う。

内容は、 1. 児童・生徒および幼児に多い疾病異常〔齲歯、裸眼視力 1.0 未満（視力検査を含む）〕 2. 盲者等の心身の故障の程度および教育措置 3. 長期欠席 4. 保健指導（禁酒・禁煙教育、薬物教育、性教育、死の教育）である。

スポーツ工学Ⅰ 2単位

池原義郎

学校・職場・地域社会などにおけるスポーツの競技あるいはトレーニングのための各種の施設について、競技者と観衆との両方の立場から必要とされる構造や機能を、建築工学的な種々な観点から、実例を参照しながら解説する。

また、スポーツのトレーニングに用いられる機器や、各種の競技に必要なスポーツ用具について、その使用方法や使用効果の問題点を、人間工学的な見地から検討する。

スポーツウェアについても、夫々の競技の種目に必要とされる運動機能性を実現するために、設計・評価において考慮されるべき要素を、身体形態学、材料工学、デザイン工学などの種々な面から分析して説明する。

スポーツ工学Ⅱ 2単位

比企静雄

スポーツという対象に適用される工学的な研究の手法は、応用物理学、機械工学、電気工学、建築学、生体工学、人間工学などの多様な学問分野にわたっているが、このスポーツ工学Ⅱでは、まず、人体の内外から加わる力の作用を解析するために必要になる力学あるいはバイオメカニクスの基礎的な概念を説明する。そのうえで、計測工学あるいは情報工学の立場から、人間の運動機能に関与する体格・体力や動作の特性を記録して分類・評価するための、多面的な測定器具・機器・システム、および、電子計算機の利用による、測定データの統計的な処理や画像解析や運動のシミュレーションのためのモデルなどについても紹介する予定である。

〔スポーツ科学科の専門教育科目の「スポーツ工学Ⅰ」の内容と相補うものである。〕

スポーツ方法論・実習Ⅰ（体操） 2単位

中村茂

体操は身体のいろいろな要素や作用をよりよくするための身体運動、という原理的な意味を含めた目的規定の見地に築かれた身体運動との見解と、同時に他のスポーツや体育運動の基本原理的な身体運動としてとらえ、「スポーツ方法論－体操－」の学習内容を設定してみた。

主として徒手体操を中心とし、その構成や個々の動作を始め、秩序運動、組み体操、集団体操、手具、器機器材を使用した運動などを実習教材として、効率的な動きづくり、身体づくりの学習としたい。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（陸上） 2単位

佐々木秀幸

陸上競技は生み出された力とスピードを、いかに技術によってコントロールするかにある。このことを主としてバイオメカニクスの分野で解析しながら、実習においてはその科学的知識を応用して競技力の向上を体験する。

これらの実習をとおして、将来スポーツ指導者として活用できるトレーニング法、コーチング法を習得する。

スポーツ方法論・実習（球技Ⅰ） 2単位（バレーボール） 矢 島 忠 明
（バスケットボール） 五 三 健

（バレーボール）履修者は、スポーツ方法論・実習（バレーボール）2単位を、（バスケットボール）履修者はスポーツ方法論・実習（バスケットボール）2単位の講義内容説明文を参照のこと。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（バレーボール） 2単位 矢 島 忠 明

バレーボールは、学校体育の教材ならびに部活の一つとして重要な役割を果たしている。と同時に社会スポーツ、職場スポーツとしても広く愛好されている。さらにまた、国内・外ともに、ポピュラーな競技スポーツとしても目ざましい進展を遂げている。このようにバレーボールが幅広く活用されてきているのは、総合的な体力を高めながら、ボールコントロール、ボディコントロールなどの能力を高めて、チームプレーに還元するコミュニケーションスポーツの役割をも果たしているからである。

本授業では、理論的な裏づけを基に、基本動作及び技術を実践に身につけると同時に、バレーボールの効果的な指導の手順、方法を修得し、加えてルール、審判をはじめとして試合の運営等について学習する。

〔テキスト〕：大泉書店発行の『バレーボール』を使用する。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（バスケットボール） 2単位 五 三 健

バスケットボールの技術構造を理解しながら、ゲームに必要な基本動作および技術、応用技術を実践に修得することを目指す。

この講座では、集団的技能を中心に展開し、その様相から課題を見付け出すことにより個人的技能の向上を計り、ゲームに連結させて行く。同時に、理論的な裏づけを基に、将来役立つバスケットボールの効果的な指導法をも身につけるようにする。

理論の実践を中心に実技指導を行うが、学校体育の教材やクラブ活動の一つとして、重要な役割を果たしているバスケットボールの教育的価値、歴史やルール、ゲームの進め方などについても、ビデオを併用して講義する。

スポーツ方法論・実習（球技Ⅱ） 2単位 <ラグビー> 日比野 弘
<サッカー> 加 藤 久

<ラグビー>履修者はスポーツ方法論・実習（ラグビー）2単位を、<サッカー>履修者はスポーツ方法論・実習（サッカー）2単位の講義内容説明文を参照のこと。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（ラグビー） 2単位 <ラグビー> 日比野 弘

ラグビーはチームスポーツである。15人のメンバー全員が、ルールと攻防理論を熟知し、自らの役割をまっとうしたときに、勝利の喜びを味わうことができる。

この講座では、ラグビーの専門的知識と、個人の技術水準を高め、あわせて将来役立つ指導法を身につけることを目的とする。

技術の上手、下手にかかわらず、スキルの向上を目指すもの、レフリー、コーチを志望するもの、教員としてラグビー経験を取り入れようとするものなど、ラグビーに関わりを持つ、幅広い層に受講してほしい。

理論の実践を中心に実技指導を行うが、雨天の際には、ラグビーの歴史、戦術論、ルール解説、ゲーム分析など、ビデオを併用して講義する。

(初回はオリエンテーション。筆記用具持参)

スポーツ方法論・実習Ⅰ（サッカー） 2単位

加 藤 久

本授業においては、サッカーを行う上で不可欠な技術、戦術、体力の三つの要素を個々に分析し、その内容、能力の高め方、相互の関連性についての理解を深める。また、それをプレーとして表現できるように実技を行っていく。

さらに、サッカーのルールや試合の進め方、歴史と現状、スポーツの中でのサッカーの位置づけ、サッカーの教育的価値などについての講義も合わせて行う。

スポーツ方法論・実習（格技） 2単位

〈柔道〉 小野沢 弘 史

〈剣道〉 安 藤 宏 三

〈柔道〉履修者は、スポーツ方法論・実習（柔道）2単位を、〈剣道〉履修者はスポーツ方法論・実習（剣道）2単位の講義内容説明文を参照のこと。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（柔道） 2単位

小野沢 弘 史

柔術から発展した柔道は、日本民族の生んだ世界に誇るべきスポーツ文化の代表である。

現代スポーツとしての柔道の理論ならびに実技を学びながら、柔道の根源を追求してその背景を求め、スポーツとしての意義を考究する。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（剣道） 2単位

安 藤 宏 三

竹刀を媒体とした打つ、突く、捌く等の対人攻防技能の習得を通して剣道の理解を深める。

男女共に初心者基礎から導入し、簡易な試合や審判ができるよう指導する。

準備するもの

- ・服装：剣道着、袴
- ・テキスト：安藤宏三著『目で見る剣道上達法』（成美堂出版）
- ・その他：手拭、名札、竹刀（カーボン竹刀が望ましい）

スポーツ方法論・実習Ⅰ（ダンス） 2単位

山 本 数 子

基礎的な身体の動きからダンスに必要な表現法を体得し、リズム感を養い思想感情を自由に表現出来る身体づくりをし、更に動きと音との関係・構成等を学びながら、ダンス創作法及び各種ダンスを踊ることによって、それぞれのダンスの特性を知り、ダンスに対する視野を広め知識を深める。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（ニュースポーツ）（レクリエーション改め） 2単位

角 田 真一郎

多様化する生活内容、労働時間の短縮、週休2日制の導入、家事労働の軽減による余暇時間の増大、65才以上が総人口の約12%を占める高齢者社会、そんな高齢者社会を見つめ、あらゆる領域、階層で、生活とのかかわりあいの中で、レクリエーション活動はますます重要な位置を占めてくる。

ここではより多くのレクリエーション・スポーツ（ニュースポーツ）を体験し、働く時代から、生活を楽しむ時代に大きくさま変わりしてゆく21世紀に向け、領域や階層において、それぞれにおける生活の中で喜びや、楽しみを得られるかについて追求したい。

必要に応じて、アウト・ドアー・スポーツとしての野外活動も取り上げたい。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（筋力トレーニング） 2単位

窪 田 登

筋力トレーニングは、“Isomerics”と“Isotonics”に大別することができる。本科目では、これらの理論と実技を徹底学習する。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（器械運動） 2単位

塚 脇 伸 作

学校教育における7運動領域の1つである器械運動の理論及び実技を行う。

技能の内容は、自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を高め、技が円滑にできるようにする。

1. マット運動
2. 鉄棒運動
3. 平均台運動
4. 跳び箱運動

なお、体育科では、採点競技である体操競技（男子：6器械種目、女子：4器械種目）を取り扱っているところから、その基本を導入する。

注：服装は、運動着上下、体操用シューズ（裸足でも可）

スポーツ方法論・実習Ⅰ（水泳） 2単位

矢 野 正 次

水中運動の一つである水泳は、夏季の限られた期間に屋外で実施される運動種目で

あった。

今日では、屋内プールの普及によって年間を通して行なえる運動種目になっている。年齢、性別に関係なく、またハンデキャッパーでも、医師等の指示によって実施が可能である。当科目では、各自の水泳能力を高めることは勿論、水泳に対する知識を学び以後の活動に役立てることを期している。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（軟式テニス） 2単位

林 敏 弘

軟式テニスは、軽いゴムボールを使用してダブルスのみで試合を行なうという特性をもったテニスである。

本授業では、基礎技術としてのグランドストローク、ボレー、スマッシュ、サーブスを練習した後、試合を数多く経験してもらう。

試合においては、前衛、後衛のコンビネーションプレーを修得するとともに、ルールの理解を深めてもらう。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（硬式テニス） 2単位

宮 城 淳

近年、社会的な要請として積極的に『やるスポーツ』の必要性が高まり、誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツを身につけることが望まれている。テニスは老若男女を問わず、しかも国際性豊かな競技であり、これらの要請に応えるスポーツとして最適であり、この授業ではテニスを通じて人間資質を高めることを目的とする。内容としては基礎実技のマスター、ストローク理論、マナー、ルール、審判法、及び戦略理論の修得を目標とする。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（卓球） 2単位

葛 西 順 一

卓球は、長さ274 cmの卓球台に2人あるいは4人のプレーヤーが対峙して、初速が126Km/hに及ぶボールを打ち合って勝敗を争う競技である。また、ボールがセルロイド製で質量が小さいため（重量は約2.4g）、ラバーの摩擦により種々のスピン（トップ・バック・サイド）が生じる競技特性がある。すなわち、卓球はきわめて短い時間の中で、スピードとスピનに対応しなければならない競技特性をもっている。

卓球競技で最も重要なポイントは、相手の打球直前までの様々な情報も認知した上で、相手打球のスピード、スピン、打球方向を予測し、打球のための最適な位置と姿勢をとることにある。

本実習では、卓球のゲームを構成する基本的な公式ルールと技術、サービス、レシーブ、フットワーク、審判法等をマスターすることを目標として、生涯を通じてプレー可能な自分流のスタイルを確立してもらう。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（バドミントン） 2単位

関 一 誠

バドミントンを生涯スポーツの中のいち競技として位置付け、学校・社会等の場における技術理論、指導法を体系的に講じる。

また、上記をふまえて、バドミントン遊びから、バドミントン競技に至る技術習得過程や、技術能力、年齢差等の対象に応じた指導実習を行う。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（ソフトボール） 2単位

吉 村 正

平成4、5、6年から、ソフトボールは、小学校（5、6年）、中学校、高等学校で選択必須になる。これは、サッカーとともに、学校体育の球技の中で最も重要視されている証である。

生涯スポーツとしてのソフトボールも、総理府の調べて分かるように、過去10年間、バレーボールや軟式野球を抜いて、日本1の競技人口を誇っている。

このように、ソフトボールは、学校体育のみならず、社会体育の場でも、広くプレーされているのである。

本授業では、小・中・高ではどのようなソフトボールを、正課体育や課外活動の場で教えるべきか、また、生涯スポーツとしてのソフトボールはどうあるべきかななどを学習する。

〔参考書〕：吉村正著『現代ソフトボールの戦法』全4巻（ベースボール・マガジン社）

スポーツ方法論・実習Ⅰ（スキー） 2単位

佐 藤 千 春

この授業においては、スキーについて何でも知っているということ、すなわち、知ることと、良く滑れるということを目指したい。しかし、そうは言っても時間には限りがある。従って、いわゆるスキーに関する基礎的な部分を大事にして、その部分から進めることができるころまで、積極的に授業を進めたい。後期9月になってから毎週一コマずつ授業を行い、雪が降ったならば3泊4日の雪上の集中授業を行う。後期併合型の授業ということである。この授業に関しては、掲示によって、いろいろな伝達を行なうから、その点十分に注意するよう望みたい。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（スケート）

伊 藤 順 蔵

基礎技術として、フォアスケエティング、スカーリング、スネーキング、クロッシング、バックスケエティング、ストップ、ターンの技術を習得する。さらにスピード、アイスホッケー、フィギュアの各競技への導入をはかる。あわせてスケートに関する知識を学ぶことにする。

スポーツ方法論・実習Ⅰ（レスリング） 2単位（本年度休講） 太 田 章

本授業は、アマチュアレスリング競技について、特に初心者、女子にもわかりやす

くその方法を指導し、フリースタイル及びグレコローマンスタイルの理論及び実技を行なう。

スポーツ特論・実習Ⅰ（水泳） 2単位

矢野正次

体育・スポーツの指導者として、水中運動の一つである水泳は、欠くことのできない必須の条件と考える。単に泳げることばかりでなく各種泳法にも優れた技能と知識を持たなければならない。

当科目では、水上安全をふまえて水泳を総合的に研究、実習する。将来、学校体育・社会、職場体育の場は勿論その他の分野での実践を期している。

スポーツ特論・実習Ⅱ（水泳） 2単位

矢野正次

「スポーツ特論・実習Ⅰ」（水泳）の修得者が対象であって、水上安全を中心に発展させていく。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ウェイトリフティング） 2単位（旧ウェイトトレーニング）

窪田登

ウェイトリフティングは、筋力やパワーを強化し、筋を肥大させるトレーニングである。すぐれた筋力やパワーが必要なスポーツ選手にとって、このトレーニングは必須である。

だが、この授業では、ウェイトリフティング競技に焦点を合わせて進めていく。

スポーツ特論・実習Ⅱ（ウェイトリフティング） 2単位（旧ウェイトトレーニング）

窪田登

本科目では、すでに「スポーツ特論・実習Ⅰ」で基礎的なウェイトリフティングの競技理論と実技を身につけているが、さらにこれに専門的なアプローチを試みる。

その他、パワーリフティング競技、ボディビルディング、スポーツ選手の補強トレーニングについても、研究を進めていく。また、実技面では、フリー・ウェイトの他にマシンによるトレーニングの実践も深めていきたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（体操競技） 2単位

塚脇伸作

学校体育における器械運動の発展である体操競技について次のような内容と理論と実習を行う。

1. 次の各器械種目に関する個人技能の確認

- (1) 男子…ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒
- (2) 女子…跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆか

2. 個人技能に応じた技の習得と習熟

3. 演技の発表とその採点

スポーツ特論・実習Ⅱ（体操競技） 2単位

塚 脇 伸 作

「スポーツ特論・実習Ⅰ」に引き続いて、一層の充実をねらい、次のような理論と実習を行う。

1. より発展した技の習得と習熟
2. 指導法の問題点とその対策
3. 器械・器具の問題点とその対策
4. 審判法の問題点とその対策
5. 競技運営の問題点とその対策
6. その他、競技力向上に関する諸問題とその対策

スポーツ特論・実習Ⅰ（陸上競技） 2単位

佐々木 秀 幸

陸上競技基礎技術の科学的な組み立てを理解し、それを修得して指導法を深めるための実習である。特に、教育実習及び公立学校採用試験に活用できる内容でもある。

1. 陸上競技トラック、フィールドの中心とする種目。
2. 陸上競技のトレーニング法
3. 児童、生徒の発育発達に応じた動きづくり。

スポーツ特論・実習Ⅱ（陸上競技） 2単位

佐々木 秀 幸

現在の自己の競技力の向上を志す者、また、将来、中学校、高等学校の教員や社会でのスポーツ指導者として陸上競技の指導、コーチングにたずさわる者のために、陸上競技の高度の専門技術を実習する。

1. 個性性による競技力の分析
2. ハイレベルのトレーニング法とコーチング法

スポーツ特論・実習Ⅰ（柔道） 2単位

大 沢 慶 己

柔道の技能を高めるとともに、投の形・固の形を修得しトレーニング法、コンディショニングなどの理論を併せて学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅱ（柔道） 2単位

大 沢 慶 己

柔道の技能をより高めるとともに、講道館護身術などの柔道の形を修得し指導法、審判法の理論も併せて学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅰ（剣道） 2単位

安 藤 宏 三

本講座では、将来、学校、地域及び各種の団体における剣道の指導者となることを

目指す諸君を対象とする。正しい剣道技能の習得と試合・審判規則に関し理解を深めることをねらいとする。

準備するもの

○剣道用具一式（剣道具、竹刀、剣道着、袴、手拭、名札）

○テキスト：安藤宏三外共著『グラフィック剣道』（大修館出版）

スポーツ特論・実習Ⅱ（剣道） 2単位

安藤 宏 三

本講座は、「スポーツ特論・実習Ⅰ」（検討）を履修した者を対象とし、更に高度な技能習得と合わせて、日本剣道形、指導法、審判法、大会の企画や運営の方法等についても学ぶことをねらいとする。

準備するもの

○剣道用具一式（剣道具、竹刀、剣道着、袴、手拭、名札）

○テキスト：『学校剣道指導の手引』（文部省）

スポーツ特論・実習Ⅰ（レスリング） 2単位（本年度休講） 太田 章

本授業は、アマチュアレスリング競技について、FILA（国際アマチュアレスリング連盟）のルールに基づく、フリースタイルと、グレコローマンスタイルの理論及び実技を行う。

スポーツ特論・実習Ⅱ（レスリング） 2単位（本年度休講） 太田 章

本授業は、レスリング競技を、その技術論及びその体力論などに細分化し、また減量などによる調整をも含めて、応用としての理論及び実技を行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ボクシング） 2単位

白鳥 金丸

ボクシング本来の有り方を理論と実践で行う。その内訳は、

1. ボクシング概念
 2. ボクシング教授法の手順
 3. ボクシングの基本動作
 4. ボクシング施設、装具、器具の取扱いと安全性について
- などである。

スポーツ特論・実習Ⅱ（ボクシング） 2単位

白鳥 金丸

「スポーツ特論・実習Ⅰ」（ボクシング）を基本に競技ルールの分析、コンディショニング、ボクシング技術、戦術等を含めた、年間プログラムの作成等を目的とする。

また、ボクシング競技の科学性を考え、体力測定、評価、実験等も併せて行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（野球） 2単位

西大立目 永

この授業の目的は、「ルールあつてのスポーツ」という厳然たるスポーツ成立条件の根源を踏まえて、野球競技の正しい基礎知識と基本技術習得の手法を多角的に学習することにある。したがって、野球規則書中の「プレイのルール」の学習にも重点を置き、規則と技術の接点を探求することをも試みたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（野球） 2単位

西大立目 永

「スポーツ特論・実習Ⅰ」（野球）で学んだ基礎知識と基本技術を基に、それらを総合的な競技力として、どのように発展させていくのかという学習を行う。

特に、野球はチームスポーツであるという通常の観念を打破し、個人技という観点にも立って、個性尊重の総合競技力を身につける手法を探求しながら実習を重ねてみたい。

さらに、アメリカをはじめとする世界野球界の動向と思想をも論じながら、それらを実習に役立てる方法を模索してみたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ソフトボール） 2単位

吉 村 正

ソフトボールは、レクリエーション的に楽しむ方法と競技的に行う方法があることを、プレーしながら理解させる。

また、これに加えて、全受講生に対して、ファーストピッチ特有の専門的技術であるウィンドミル投法と左打者の反対打ちを習得させる。

ただし、雨天の場合は、ソフトボールの本質や歴史、あるいは審判法や記録のとり方等を講義する。

〔テキスト〕：吉村正著「ソフトボール教室」（大修館書店）

〔参考書〕：吉村正著「現代スポーツコーチ実践講座15，ソフトボール」（ぎょうせい）

スポーツ特論・実習Ⅱ（ソフトボール） 2単位

吉 村 正

原則として、全国大会あるいは全国大会に準ずる大会で活躍できる選手を育成する。ただし、選手を志さない学生に対しては、それらの大会で審判員とか記録員といった分野で貢献できる人材を育成する。

合わせて、大衆スポーツの王者であるソフトボールの本質を、スローピッチやミディアムピッチの規則に則ってプレーしながら体得させる。

〔テキスト〕：吉村正著「実践ソフトボール」（大修館書店）

〔参考書〕：吉村正著「現代スポーツコーチ実践講座15，ソフトボール」（ぎょうせい）

スポーツ特論・実習Ⅰ（テニス） 2単位

宮 城 淳

近年、社会的な要請として積極的に『やるスポーツ』の必要性が高まり誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツを身につけることが望まれている。テニスは老若男女を問わずしかも国際性豊かな競技でありこれらの要請に応えるスポーツとして最適であり、この授業ではテニスを通じて人間資質を高めることを目的とする。内容としては中級程度の実技のレベルアップ、ストローク理論、マナー、ルール、審判法の修得を目標とする。

スポーツ特論・実習Ⅱ（テニス） 2単位

宮 城 淳

近年、社会的な要請として積極的に『やるスポーツ』の必要性が高まり誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツを身につけることが望まれている。テニスは老若男女を問わずしかも国際性豊かな競技でありこれらの要請に応えるスポーツとして最適であり、この授業ではテニスを通じて人間資質を高めることを目的とする。内容としては高度な実技の修得と、初心者から中級者までの指導法の修得を目標とする。

スポーツ特論・実習Ⅰ（軟式テニス） 2単位

林 敏 弘

軟式テニスにおいて高度の技術水準に達している諸君に、軟式テニスの合理的練習方法、試合での戦法、ルールの正しい理解などについて学習してもらう。また、とかく選手からは軽視されがちな「審判のあり方」についても検討していく。

スポーツ特論・実習Ⅱ（軟式テニス） 2単位

林 敏 弘

スポーツ特論・実習Ⅰ（軟式テニス）の履習者を対象として、さらに高度の諸技能を修得してもらうとともに、将来の指導者として指導方法の学習にとりこんでもらう。また近年国際普及をなしつつある軟式テニスについての広い視野から、あるべきルールの検討を行っていく。

スポーツ特論・実習Ⅰ（卓球） 2単位

森 武

まず、理論的にも技術的にもできるだけ高度の次元に到達できることを目標とした。

もちろん、目的やレベルによって多角的な指導法をとっていく。たとえば、レクリエーションな地域での指導法、学校体育の授業やコーチ・顧問としての指導法、さらには日本代表チームの指導者となる場合なども含めて考えている。その他、ルールと審判法、また大会運営法（公認資格取得を目的としたもの）など現実に役立つものもとりあげたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（卓球） 2単位

森 武

スポーツ特論・実習Ⅰ（卓球）をまずご参照いただきたい。それら全般的なものの中から、とくに学生諸君の希望（面談の上）する内容を深く学習する授業としたい。たとえば初心者指導を主な目的と考える場合に将来学校クラブの顧問や指導者を目指す～また、日本代表を目指す場合～今後も現役プレーヤーとして続ける～それぞれの目的に合致した内容を組立てていきたい。

なお、近年新たに「ラージボール卓球」が文部省や厚生省の催物に採用されている。この面の学習と併せて共に研究の対象にしたいと考えている。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バドミントン） 2単位

関 一 誠

学校体育・社会体育の場で、初心者を対象とした指導法（導入・展開・応用）を講じ、バドミントン遊びからバドミントン競技まで各段階による実習を行う。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バドミントン） 2単位

関 一 誠

「特論・実習Ⅰ」を踏まえて、競技バドミントン技能の向上、策戦・戦法のたて方等、競技の特性を生かした方法論・実習を行う。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バレーボール） 2単位

矢 島 忠 明

競技スポーツとしてのバレーボールと、レクリエーションスポーツとしてのバレーボールの違いについて学ぶことを基調として、高いレベルを目標としての個人技能、及び集団技能を習得する。

実技と共に、文献学習やビデオ教材の利点を生かし、戦術・戦法などの研究を行って授業を進める。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バレーボール） 2単位

矢 島 忠 明

競技スポーツの観点からバレーボールを捉え、身体運動に関する科学的知識・情報あるいは、その分析を学び、チームや個人技能に応じた、適切なプログラムを組み立てて、それを実習する。これをもとにして、バレーボールのコーチングなどに役立つことを前提に授業を行なう。

スポーツ特論・実習Ⅰ（バスケットボール） 2単位

伊 藤 順 蔵

バスケットボールの基礎技術として、ボールハンドリング（パス、ドリブル、ショット、リバウンド）・からだを扱う技術・ディフェンスの技術修得

基礎的プレーとして、1対1の攻防・2対2の攻防・3人の連けいプレーと防御・アウトナンバーの攻防の技術修得と、バスケットボール指導法の研究について学んでいく。

スポーツ特論・実習Ⅱ（バスケットボール） 2単位

伊 藤 順 蔵

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターの上に、チームディフェンスとチームオフェンスの完成を目標とする。実技は、マンツーマンディフェンスとその攻撃法・ゾーンディフェンスとその攻撃法、プレスディフェンスとその攻撃法・速攻とその防御法を修得する。

あわせて、審判法、技術の段階に応じた指導法・スカウディング・作戦計画などについて学んでいく。

スポーツ特論・実習Ⅰ（ラグビー） 2単位

日比野 弘

ラグビーの歴史、攻防理論、集団スキル、戦術、ルールなどを専門的に研究する。各人の競技者として、又は指導者としての力を向上させることを目的とする。

スポーツ特論・実習Ⅱ（ラグビー） 2単位

日比野 弘

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターの上に、ラグビーのコーチング、レフリング、トレーニングなどの知識を更に深く研究する。スポーツ指導者として社会に貢献できる人材の養成を目的とする。

スポーツ特論・実習Ⅰ（サッカー） 2単位

加 藤 久

技術・戦術・体力というサッカーに不可欠な三つの要素のうち、特に技術に関しての解説と実習を行なう。

運動学習理論をふまえながら、サッカーの技術が、どのような一般性と特殊性を持つものであるかを明らかにし、ゲームを通じてその技術の体得を目指す。

また、サッカーの歴史と現状、サッカーのルールやゲームの進め方についても言及する。

スポーツ特論・実習Ⅱ（サッカー） 2単位

加 藤 久

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の理解のともに、サッカーの技術と戦術のつながり、技術を個人戦術・グループ戦術・チーム戦術にどう生かしていくかを解説・実習する。

また、サッカーの体力とはどういうものか、体力トレーニングの方法にはどのようなものがあるかについても論じる。

最後に、総説としてサッカーのコーチングのあり方、指導者の役割について言及する。

スポーツ特論・実習Ⅰ（スキー） 2単位

佐 藤 千 春

スキー技術、およびスキー技術に関するいろいろな運動、運動感覚、筋肉感覚、心理的なことまで、科学的に研究することが、この特論の主目的である。しかし、スキ

一技術と言っても、余りにも幅広い内容をもつ。そこで、とりあえず、基礎的なものをよく絞り込んでこの特論の内容としたい。もう少し具体的に言うならば、全日本スキー連盟の提唱している基礎スキー部門、そして、準指導員検定において、そのライセンスをクリアすることなど、興味深いテーマになり得るものと考えている。教職を希望するものに対しても、有効なテーマであると思う。雪のない季節には、スキー技術に対するトレーニング理論とその実習、および指導についての考え方、指導法などについて、授業のなかに組み込んで考えていきたい。

スポーツ特論・実習Ⅱ（スキー） 2単位

佐藤 千春

「スポーツ特論・実習Ⅰ」に解説したように、スキー技術、およびスキーに関するいろいろな運動を、スポーツ科学という領域において研究することを目的として、この特論・実習Ⅱの授業を進めていきたい。そのためには、いろいろの創意工夫をしていかなければならないだろう。視野を広くもって考えていきたい。「特論・実習Ⅰ、Ⅱ」ともに、それぞれ分立したものではなく、もとより一つのものを便宜的に二つに分けて実習するに過ぎない。このことも明記しておきたい。

スポーツ特論・実習Ⅰ（スケート） 2単位

伊藤 順蔵

基礎技術として、フォアスケーティング、スカーリング、スネーキング、クロッシング、バックスケーティング、ストップ・ターンをマスターするとともに、スピードスケーティング、アイスホッケー、フィギュアの各競技種目の初歩の技術修得あわせて、スケートの歴史、スケートの手入れ法などスケートの知識を学ぶ。

スポーツ特論・実習Ⅱ（スケート） 2単位

伊藤 順蔵

「スポーツ特論・実習Ⅰ」の実技と理論をマスターの上に、スピードスケーティング、アイスホッケー、フィギュアの各競技種目の技術研修に励むとともに、バジテストなどに挑戦する。

あわせて、競技の見方、カリキュラムなどの指導計画のたて方、指導法・評価法などを学ぶ。

スポーツ史 2単位

寒川 恒夫

スポーツの起源から今日に至る発展史を、未開社会、古代、中世、近世、近代、現代、にわけて講義する。テキストには、岸野雄三（編著）『体育史講義 1984年』（大修館）を使用する。

比較スポーツ論 2単位（本年度休講）

共産圏諸国（ソ連・中国・東ドイツ等）のスポーツについて、その成立過程（歴

史), 思想, 組織, 社会の中での評価等に関して考えることによって, 自由圏諸国(日米英韓等)のそれとの相違点, 類似点を描き出し, 比較研究する。

教科書は、『共產主義国のスポーツ』を使用する予定であるが, 詳細については, 授業開始時に指示する。

コーチング論 2単位

(A) 塚 脇 伸 作

(B) 日比野 弘

スポーツにおけるコーチングの基礎理論とその応用について, Aでは個人的スポーツを, Bでは集団的スポーツを対象にして, 具体例をあげながら解説する。

主に次のような内容を取りあげる予定である。

1. コーチングシステム
2. 体力と技術の相互関係
3. 指導者に必要な観察力
4. トレーニング計画とトレーニング管理
5. 勝敗を決定する要因
6. その他, 競技力向上のためのコーチングの諸問題

測定評価論 4単位 (旧体育測定法・演習)

上 田 雅 夫 葛 西 順 一

永 田 晟 鈴 木 秀 次

前 田 勝 也 村 岡 功

現代において, 運動・スポーツを指導する者に要求されることは, 科学的に裏付けられた指導法であり, またそのためにも, 指導者は様々な問題点を客観的に測定評価することが不可欠となろう。

そこでここでは, スポーツ科学を担う者が具備すべき基本的な測定法とその評価法について, 実際のデータをもとにしながら検討を加えることとする。

それゆえ, 本講座では少人数による班分けを行い, 班ごとにそれぞれ専門分野の異なる6人の担当者をローテーションすることとなろう。

実際の内容としては, スポーツ心理学, 体力学, スポーツ生理学, 動作分析, バイオメカニクス等の分野において日常的になされている測定法の習得と, それを評価するために必要とされる基本的な統計法の概説とからなっている。なお, それぞれの詳細については, 担当者がその都度指示する。

武道概論 2単位

志々田 文 明

今日, 武道という言葉は, 一般に柔道や剣道など日本古来の運動文化ないしは運動技術を表わす総合名称として用いられているが, このような用法は明治時代の末以降

のことである。江戸時代には武道は武士道ないし士道と同意語に使われていた。この講義では、武道を考察する際の原点としてそれらの用法の変遷をふまえて武道の精神性（倫理道徳的あるいは求道的）及び技術性などの文化的特色をみていく。それらの特色から、現代行なわれている武道を考え、今後のあり方を考えていきたい。

（参考書：宮本武蔵『五輪書』，岩波文庫）

ダンス概論 2単位

山本数子

舞踊の歴史を通して技術と表現。形式と内容及び構造。舞踊と音楽との関連，各種ダンスについての知識を深める。

教科書は使用しません。

原書講読演習Ⅱ 2単位

比企静雄

この原書講読演習では、まず、スポーツ科学を構成する人文科学・社会科学・自然科学の各学問分野を概観した上で、主として、工学的な側面からスポーツ科学の研究の手法を把握することを目的としている。教材には、

Harold J. Vanserzwaag and Thomas J. Sheehan: Introduction to sports studies,

Wm. C. Brown Company Publishers, 1978

M. Stewart Townend: Mathematics in Sport, Ellis Horwood Limited, 1984

などを利用する予定である。

原書講読演習Ⅱ 2単位

加藤清忠

形態学や解剖学に関する文献を読みながら、ヒトのからだの構造や形態に対する理解を深めていきたい。

テキストについてはそのつど授業中に指示する。

原書講読演習Ⅱ 2単位

児玉昌久

スポーツ科学の領域における種々の心理学的問題特に mental management あるいは self control に関しての文献を読む。必ずしも専門性の高い文献を読む事を目的としている訳ではなく、スポーツ科学に興味を持つ者やスポーツを実践する者に共通する問題を扱った一般的なテキストを用いるが、行動・学習理論の理解や専門語の知識があれば、内容の理解や技術の修得・応用に有効である。そのための基礎知識を得るには、ヘップ著「行動学入門」（紀伊国屋書店）、八木晃監「現代基礎心理学」（全12巻，東大出版），本吉良治編「学習」（講座心理学第6巻，東大出版）などを随時利用するとよい。

テキストの内容に対応して、受講生自身の mental management の実践も併せて行ってゆきたい。

原書講読演習II 2単位

梅澤 宣雄

本演習は、主として北米及び英国の文献を通して、スポーツ経営学の理解を深めることを目的とする。

専門教育科目 (各学科共通 選択)

哲学の人間学Ⅰ 2単位

北 村 実

「人間」は生物の一種であるが、しかし他の生物とは質的に異なる特質を持っている。「(自然) 人類学」が動物学の一分科として人間を研究していくのに対して、それだけではとらえきれない「人間」の特質を総合的に考察していくのが「哲学の人間学」である。講義では、広い視点から「人間」を見つめ直し、「人間」とは何か、という古くて新しい問への私なりの答えを出してみたい。

哲学の人間学Ⅱ 2単位

北 村 実

人間と他の動物との決定的な違いの一つは、行為を選択できるか否かにある。選択の自由、意志の自由について、代表的な見解を概観し、人間としての自覚を深めるよすがとしたい。

言語・記号論 2単位

遠 藤 弘

言語に関する、あるいは記号一般に関する学際的な研究は今日ますます盛んになりつつある。それというのも、「人間は記号である。」と解することの可能性が一層現実的なものとなってきているからである。本講は哲学的な視座から記号現象一般の人間的な意味を解明するとともに、とりわけ言語の本質に探りを入れることを目的とする。

民族文化論 2単位

吉 村 作 治

20世紀末から21世紀にかけて世界は民族を中心に動くと予想される。民族という概念は難しい部分が多々あるが、言語、習慣など今日の私たちの世界観をつくる上で重要である。この講座では民族を文化の面から考えてみようというもので、特に食文化を中心に考察していくつもりだ。食文化は環境が大変重要であり、又文化の交流によって古代の食習慣が全く変化してしまう場合もある。そして宗教もその影響を大きくしているのは、タブーという形式を見ても明らかである。それらを総合的に検証する為、VTRやスライドなど映像を利用しながら進めていく予定。

認知理論 2単位

西 本 武 彦

認知については、心理学の極めてコンテンポラリーな分野として近年注目を浴びている。ともすると抽象的で難解と思われがちであるが、本講ではできるだけ具体的実

例や簡単な実験をまじえ、知覚・学習・記憶・思考・言語といった各分野を統一的に説明する枠組みとしての認知的アプローチの今日的意義を紹介していきたい。テキストについては講義の中で指示する。出席厳守。

人格心理学 2単位

富田 正 利

人格(Personality)とは人間を個人として総合的に捉える概念であり、気質、性格、知能といった個人のすべての特性を包括する概念である。その研究は近代心理学の成立の遙か以前から関心を持たれてきたし、現代に於ても心理学の究極の目標として追求する研究者も多い。本講ではそうした研究の歴史を振り返り、近代心理学における人格研究の多様な展開の跡をたどり、現代における諸理論を概観して、人格研究のあり方を探りたい。

教育心理学 I 2単位

佐々木 正 人

「こども」、「社会」といった教育の場を構成している諸要素の有機的な結びつきとして教育を捉え直してみたい。こどもの社会史、記号論、認識の発達理論、教育の認知人類学などの成果から、教えること、学ぶことの本来の姿について議論したい。「アクティブ・マインド」(東大出版会)を教科書に指定する。

運動心理学 2単位

児 玉 昌 久

新しい運動を覚えたり、すでに覚えている運動の技術を高めようとする時、多くの要因がある原則に従って作用しあう。それら種々の要因や法則のうち心理学的な問題をとりあげて解明し応用してゆくのが運動心理学の目的である。運動技術獲得のメカニズムや法則性、技術向上を促進したり妨害する心理的要因や動機の問題、獲得した技術の十分な発揮を援けたり妨げたりするメンタル諸問題についての基礎的な面を述べる。

社会心理学 2単位

斉 藤 勇

社会心理学の基礎的知識と基本的考え方について、講義する。講義内容は次の通りであるが、社会心理学の実験的アプローチを中心に紹介していく。

- 社会的認知
- 社会的態度
- 社会的欲求
- 社会的行動
- グループ・ダイナミックス

保健社会学 2単位

佐久間 淳

まず現代社会における生活の特徴にふれ、それらと健康、疾病（成人病など）との関係を説明する。ついで日本の医療社会史から、医療サービスの特徴にふれる。一方、日本人の健康や疾病に対する意識や行動について文化人類学、行動科学、統計的手法を用いた保健・医療社会学の解析・把握法を説明する。

内容は、健康増進、疾病に対する個人、集団の機能など専門的なものであるが、具体的に身近な問題をわかりやすく講義するので、受講者は新たな視界が広まるであろう。

たとえば、歩行量と成人病との関係、東京都と大阪府の傷病や死因別死亡率、平均寿命の差の原因などに切りこむ。また、地域別自殺率とその社会的背景、死因や死亡率の地域比較分析など、自分の置かれている社会的状況への新しい視点からの分析法を習得したい。

〔テキスト〕：佐久間淳著『医療社会学概説』（大修館）1988

人間工学 I 2単位

石田 敏郎

人間工学の基本的な考え方と、人間工学を理解するために必要な基礎的事実について、具体的な実験例をもとに概説する。

また、人間工学は学際的な学問であり、最近の進歩も著しいので、そうした話題にもふれる。

脳神経科学 2単位

濱 清

脳神経科学概論

- ① 興奮の伝導および伝達と神経細胞の構造
- ② 神経細胞レベル、中枢レベルにおける情報処理の構造的基礎

の概説を行う。

〔参考書〕：

Principle of Neural Science, Kandel and Schwartz, Elsevier Co.

From Neuron to Brain, Kuffler and Nicholls, Sinauer Co.

精神医学 I 2単位

濱 田 秀 伯

狂気の歴史をたどることは、人間の歴史をたどることにほかならない。本講座では過去から現代に至る精神医学の流れを概観し、人間が心の病とどのようにかかわってきたのかを述べる。特に精神障害の理解に不可欠な用語の解説、症候学、分類学に重点をおきながら、今日知られている精神疾患の原因、治療、医療上の諸問題などによれ、精神医学全般にわたって偏りのない視点を提供することを目的としている。

精神医学Ⅱ 2単位

濱田 秀 伯

本講座では、変質論、大脳局在論、精神分析学、現象学、器質力動論など精神にかかわる考え方、理論の流れを概観する。特に19世紀ヨーロッパに始まる近代精神医学が、機械・還元論的な自然科学の思潮に対抗し、人間を不可分な全体としてとらえる見地から発展した過程を、生物学、心理学、社会学、哲学などとの関連において論じる。本講座は精神医学Ⅰに続くものであり、受講者は原則として精神障害の一応の知識を有することが望ましい。

精神衛生概論 2単位

山 崎 勝 男

精神衛生とは、「心の健康」の維持と向上、および「心の不健康」の治療と予防に関する複合科学である。現代社会のどの側面を取り上げても、人間の心に大きな影響を及ぼさないものはない。しかしながら、同じ状況にあり同じ影響を受けても、心身ともに元気な人と、種々の精神身体症状を示す人がいる。これらの背景に潜む人格、態度の差異を視野に入れながら、ここでは現代人に多く見られる心身症（ストレス病）や神経症などを中心テーマに選び、具体的な症例を基にして発症のメカニズムを考察することにより、逆にその防止策を各自が探り出し、いかにして「心の健康」を維持し向上させるかを考えてみる。講義の内容は精神医学や心身医学よりも、心理学的色彩が濃いものとしたい。

精神身体医学Ⅰ 2単位

松 澤 大 樹

人間の精神と身体は不離一体できりばなすことは出来ない。近年コンピューター映像装置の開発と普及により、人間の脳の形態と機能を被験者に苦痛を与えることなく詳細に把握することが出来るようになった。とくに脳の高次機能いわゆる“こころ”の解明が始まり、精神と身体がどのように結びついているのか明らかになりつつある。この科学について述べる。

栄 養 学 Ⅰ 2単位

太 田 富貴雄

体格も良く、健やかで体力にも恵まれた活動的な一生を送ることは、多くの人の願いであろう。身体を造る材料を提供し、生命維持に不可欠な生理作用の調整を行い、活動のためのエネルギーを供給するのが食物である。栄養学は食物と発育・健康・疾病との関係を究め、健康増進に役立つ食生活の指針をつくることを目的としている。本講義では、人間が必要とする食物成分（栄養素）の種類と生理的役割、至適摂取量、各種食品の栄養的特徴など栄養学の基本的事項について述べる。また、体力増強や健康水準の向上を図るための食生活のあり方についても言及する。なお、栄養学の応用実践面については、栄養学Ⅱで詳しく紹介する。

スポーツ医学Ⅰ 2単位

福 林 徹

スポーツ障害、外傷の中でも外科的疾患を中心に部位別・競技別に実例を提出しながら紹介し、その救急処置・治療法について述べる。またスポーツの安全対策・障害予防という面から、スポーツ復帰にあたっての運動処方や、テーピングの方法、物理療法について言及したい。

スポーツ医学Ⅱ 2単位

福 林 徹

スポーツ医学Ⅰに続き、スポーツ障害の中でも循環器系を中心とした内科的疾患を中心に、その治療と予防法について解説する。また最近注目をあびているメディカルチェックの方法とその意義、さらには食事療法、栄養指導、ドーピングと薬物療法などについても言及し、実例を提示しながらその具体的方法について述べる。

救 急 医 学 Ⅰ 2単位 (旧救急処置法)

安 達 正 夫

我々が社会生活を営むうえで、他人に救急処置を実施しなければならない機会は少なからずあると考える。

そのような緊急時に、我々がまず実行しなければならない救急処置の実際を、基礎編と応用編に別けて講義をおこなう。

救急医療(Ⅰ)では、人の呼吸・循環動態といった生理学的知識から始まり、様々な障害や疾病の原因、病態生理、臨床症状といった点まで講義をおこなう。

救 急 医 学 Ⅱ 2単位 (旧看護法)

安 達 正 夫

ここでは、救急医療(Ⅰ)で講義した基礎的な知識をもとにして、救急処置法の実際的なやり方を講義する。熱中症、心疾患、呼吸器疾患といった内科的におこりうる疾病はもとより、様々な外傷に対する救急処置の方法を具体的に講義する。

さらに、わが国における救急医療の実態も紹介する。

画 像 医 学 Ⅰ 2単位 (旧物療医学)

松 澤 大 樹

近年における各種コンピューター利用による映像装置(X線コンピューター断層装置、磁気共鳴映像装置、陽電子断層装置)の開発の成功と普及は、被検者に何ら苦痛を与えることなく生体局所、例えば脳の形態図又は機能図の作成を可能にした。画像医学Ⅰにおいては、これらの各種コンピューター映像装置の開発の歴史、原理、装置の特徴について述べる。

尚、個体の発生、成長、成熟、老化の問題、更にこれらの正常組織に対し、悪性組織である“がん”がこれらの映像装置により、どのようにとらえられるかを画像により示す予定である。

画像医学 II 2単位

松澤大樹

各種コンピュータ映像装置の開発と普及は、今迄全く見ることの出来なかった生体局所の形態と機能を定量的又は定性的画像として視覚により把握することを可能とした。特に今迄に明らかにされていない脳の高次機能の解明を可能にしつつある。例えば痴呆のことをラテン語で dementia = de (失調) + mentia = (精神又は“こころ”) というが、痴呆の発症の機構を明らかにすることは、まさに“こころ”の解明につながることになる。“こころ”の解明は人間がどのような生き物であるかを明らかにする道であり、尚混沌の中にいる人類に光明を与える可能性をもっている。これらの問題について述べる。

運動処方論 2単位 (本年度休講)

永田 晟

トレーニングと運動処方の違いを明確にして、それらの基礎的な生理科学と資料を提示する。そして人間改造の可能性を探り、健康と体力の保持増進の道標や指標を具体化する。そのやり方を現場のフィットネスクラブを見学しながら実習する。

運動処方上、必須な ①運動内容(種類) ②運動頻度 ③運動強度の理論を教示し、個人のレベルに対応した個別的な処方箋作りの方法論を展開する。特に、一般人の健康体力のための処方が組み立てられ、“健康・体力相談士”や“健康運動指導上”、“運動プログラマー”としての能力が得られるように詳講し配慮する。別に各事業所の健康・体力相談室を体験入学する予定である。

〔教科書〕：『健康・体力づくりハンドブック』(大修館)

コミュニティ・スポーツ論 2単位 (旧地域体育論)

濱野吉生

地域社会における体育・スポーツの進め方、その法的根拠、歴史と現状などについて、諸外国の例も交えながら述べていくが、なおその他にスポーツそのものについても、かなりのウェイトを置いて言及する予定である。

参考書等については、授業中に指示する。

職場体育論 2単位

前田勝也

職場体育といっても、一般にはあまり聞きなれない言葉かもしれない。総括的に考えれば、レクリエーションということになるだろうが、ここでは、仕事を持つ人々の職場における状況を、人間に加わる負担という形でとらえ、それらからの人間への影響、さらにその影響に対応する意味でのレクリエーションの問題について考察を進める。

寄附講座 8単位 (分子神経生物学)

川名明夫

工藤佳久

井上宏子

これまでの神経生物学の主なテーマは、神経細胞の形態と生理機能の関係を追求することであった。しかしながら最近の分子生物学の進歩に伴い、神経の発生・生長・機能発達の諸問題を遺伝子のレベルで解明出来るようになった。

そこで本講義では、先ず分子生物学、及び神経生物学の基礎について講義を行い、次いで、新しい学問である分子神経生物学の構築を試みる。また講義内容を理解させるために、実習を行う。

以下のような諸項目に重点を置く。

- (1) 脳・神経の発生
- (2) 脳・神経の機能分子
- (3) 脳・神経の発生と機能を制御する遺伝子
- (4) 脳に特異的に発現する遺伝子

1991（平3）年度 全学部共通設置「寄附講座」

1. 日本の企業の海外活動（財団法人 経済広報センター寄附講座）

－その法と経済の実際

1) 科目の取扱い：

政治経済学部、法学部、理工学部、人間科学部：随意科目扱い

第一文学部、第二文学部：一般教育科目として認める。

教育学部：原則として随意科目扱いであるが、振替希望者は一般教育科目として認める。

商学部：専門教育科目第二部として認める。

社会科学部：専門教育科目B群として認める。

2) 単位数：4単位

3) 曜日・時限：土曜日・2時限

4) 教室：12号館205号室

5) 担当教員：本間忠良（非常勤講師 三菱電機(株)知的財産渉外部長）

6) 登録方法：期間：4月8日（月）～4月20日（土）

時間：9時～16時30分（土曜日は14時まで）

ただし、12時30分から13時30分は閉室。

場所：商学部（幹事学部）事務所（11号館1階）

備考：先着順に定員（135名）まで受け付ける。

学生書必携。

7) 講義内容：

日本企業を取り巻く国際通商の諸問題を、電子／情報産業における最新の事例研究を通して説明し、その本質の把握と、21世紀への方向づけを試みる。とくに、ダンピングに代わって通商問題の主役を占めつつある技術がらみの通商／競争問題を詳しく論じる。

第一部 日本人にとっての GATT の意味：

ウルグアイ・ラウンドの総決算。国際通商における「公正の概念」と抑止の思想。アメリカ問題。

第二部 ダンピング：

ダンピングは（なぜ）不公正か（テレビ事件と半導体事件）

第三部 技術をめぐる通商と競争の諸問題：

水ギワ法とあたらしい保護主義。情報化革命と知的財産（コンピュータ著作権とトレード・シークレット）。情報／思想の囲いこみ。競争法の挑

戦。

第四部 あたらしいビジネスの論理：

競争原理の貫徹(NUE ゼニス事件)。

教科書：最新の情報を扱うため既存の教科書は使えません。資料を配布します。

参考書：「アメリカ FC 通商関係法実務必携 改訂版」(第一法規)。

役付教職員一覧

学 部 長	相 馬 一 郎
教 務 主 任 (教務担当)	濱 野 吉 生
教 務 主 任 (学生担当)	木 村 一 郎
教 務 副 主 任 (教務担当)	坂 野 雄 二
教 務 副 主 任 (学生担当)	宮 内 孝 知
人間基礎科学科主任	春 木 豊
人間健康科学科主任	野 呂 影 勇
スポーツ科学科主任	上 田 雅 夫
事 務 長	坂 田 孝 昭
図 書 課 長	遠 藤 雅 司

平成3年度クラス担任者一覧

第1学年

クラス	担任者	クラス	担任者
1	根 建 金 男	11	田 中 純 蔵
2	浅 井 邦 二	12	谷 川 章 雄
3	池 岡 義 孝	13	吉 村 正
4	佐々木 正 人	14	梅 澤 宣 雄
5	矢 野 敬 生	15	太 田 富貴雄
6	山 内 兄 人	16	児 玉 昌 久
7	吉 村 作 治	17	鈴 木 秀 次
8	菅 野 純	18	町 田 和 彦
9	蔵 持 不三也	19	村 岡 功
10	佐 古 順 彦	20	山 崎 勝 彦

第2学年

クラス	担任者	クラス	担任者
1	浅 井 邦 二	16	宮 崎 正 己
2	矢 野 敬 生	17	児 玉 昌 久
3	大 島 康 行	18	山 崎 勝 男
4	吉 村 作 治	19	村 岡 功
5	臼 井 恒 夫	20	寒 川 恒 夫
6	山 内 兄 人	21	宮 内 孝 知
7	吉 岡 亨	22	町 田 和 彦
8	池 岡 義 孝	23	比 企 静 雄
9	佐 古 順 彦	24	梅 澤 宣 雄
10	野 嶋 栄一郎	25	濱 野 吉 生
11	蔵 持 不三也	26	鈴 木 秀 次
12	谷 川 章 雄	27	太 田 富貴雄
13	門 前 進	28	塚 脇 伸 作
14	菅 野 純	29	永 田 晟
15	石 田 敏 郎	30	加 藤 清 忠

第 3 学 年

クラス	担 任 者	クラス	担 任 者
1	嵯峨座 晴 夫	20	坂 野 雄 二
2	柿 崎 京 一	21	宮 崎 正 己
3	臼 井 恒 夫	22	相 馬 一 郎
4	木 村 一 郎	23	佐 古 順 彦
5	飯 野 徹 雄	24	菅 野 純
6	佐々木 正 人	25	児 玉 昌 久
7	根 建 金 男	26	山 崎 勝 男
8	青 柳 肇	27	村 岡 功
9	瀧 清	28	寒 川 恒 夫
10	蔵 持 富三也	29	宮 内 孝 知
11	岡 野 静 二	30	町 田 和 彦
12	門 前 進	31	比 企 静 雄
13	吉 村 正	32	梅 澤 宣 雄
14	山 本 多喜司	33	濱 野 吉 生
15	石 田 敏 郎	34	鈴 木 秀 次
16	野 呂 影 勇	35	太 田 富貴雄
17	黒 田 勲	36	塚 脇 伸 作
18	小 泉 英 二	37	永 田 晟
19	野 嶋 栄一郎		

第 4 学 年

卒業論文指導教員がクラス担任にあたる。

教 員 一 覧

専任教員（五十音順）

氏 名	主な担当科目
青 柳 肇	動機づけ理論法
浅 井 邦 二	心理学的測定及び実習
安 藤 宏 三	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（剣道）
井 上 宏 子	寄附講座
飯 野 徹 雄	遺伝学及び実習
池 岡 義 孝	家族社会学及び実習
石 田 敏 郎	情報処理（コンピュータ基礎・実習）
伊 藤 順 蔵	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（バスケットボール）
上 田 雅 男	スポーツ心理学
臼 井 恒 夫	都市社会学及び実習
梅 澤 宣 雄	スポーツ経営学Ⅰ，Ⅱ
小野沢 弘 史	スポーツ方法論・実習Ⅰ，Ⅱ（柔道）
大 島 康 行	生態系科学
大 澤 慶 己	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（柔道）
太 田 章	スポーツ特論・実習Ⅰ，Ⅱ（レスリング）
太 田 富貴雄	栄養学Ⅰ，Ⅱ
岡 野 静 二	福祉援助論
柿 崎 京 一	地域社会学及び実習
葛 西 順 一	測定評価論
加 藤 清 忠	身体形態学（解剖学を含む）
加 藤 久	スポーツ方法論・実習Ⅰ，Ⅱ（サッカー）
神 崎 巖	独語
菅 野 純	学校カウンセリング
木 村 一 郎	細胞学及び実習

木村利人	バイオシックス(自然・生命・人間の秩序)
窪田登	スポーツ特論・実習Ⅰ,Ⅱ(ウエイトトレーニング)
蔵持不三也	比較文化論
黒田勲	人間行動と環境(医)Ⅰ,Ⅱ
小泉英二	演習Ⅰ(学校カウンセリングの基礎)
児玉昌久	運動心理学
三枝幸夫	英語
坂野雄二	行動療法Ⅰ,Ⅱ
嵯峨座晴夫	社会変動論
佐古順彦	環境心理学Ⅱ
佐々木秀幸	スポーツ特論・実習Ⅰ,Ⅱ(陸上競技)
佐々木正人	認知発達理論
佐藤千春	スポーツ特論・実習Ⅰ,Ⅱ(スキー)
重原淳郎	独語
志々田文明	武道概論
白鳥金丸	スポーツ特論・実習Ⅰ,Ⅱ(ボクシング)
鈴木秀次	バイオメカニックスⅠ
鈴木晶夫	非言語行動論
関一誠	スポーツ特論・実習Ⅰ,Ⅱ(バドミントン)
寒川恒夫	スポーツ文化論
相馬一郎	環境論
田中純蔵	英語
店田廣文	社会開発論
谷川章雄	日本文化史
塚脇伸作	スポーツ特論・実習Ⅰ,Ⅱ(体操競技)
角田真一郎	スポーツ方法論・実習Ⅰ(ニュースポーツ)
中村桂子	生命科学論
中村茂	スポーツ方法論・実習Ⅰ(体操)
永田晟	バイオメカニックスⅡ
西大立目永	スポーツ特論・実習Ⅰ,Ⅱ(野球)
根建金男	認知行動理論

野 嶋 栄一郎
野 呂 影 勇
濱 清
濱 口 晴 彦
濱 野 吉 生
林 敏 弘
春 木 豊
比 企 静 雄
日比野 弘
船 戸 徳 郎
前 田 勝 成
町 田 和 彦
宮 内 孝 知
宮 城 淳
宮 崎 正 己
村 岡 功
森 武
門 前 進
矢 島 英 明
矢 野 敬 生
矢 野 正 次
山 内 兄 人
山 崎 勝 男
山 本 多喜司
吉 岡 亨
吉 村 作 治
吉 村 正
ロバート・グレイ

教育心理学 II
人間工学 II
脳神経科学及び実習
社会学理論史
コミュニティ・スポーツ論
スポーツ特論・実習 I, II (軟式テニス)
行動学
リハビリテーション
スポーツ特論・実習 I, II (ラグビー)
スポーツ特論・実習 (体操競技)
職場体育論
公衆衛生学
スポーツ社会学
スポーツ特論・実習 I, II (テニス)
運動・保健概論
運動生理学
スポーツ特論・実習 I, II (卓球)
心理療法 I, II
スポーツ方法論・実習 I, II (バレーボール)
社会集団論
スポーツ特論・実習 I, II (水泳)
比較形態学
精神生理学及び実習
演習 II (発達と環境)
生理学及び実習
比較文明論
レクリエーション論
英語

兼任教員 (五十音順)

氏 名	本属箇所	担当科目
池 原 義 郎	理 工 学 部	スポーツ工学 I
岩 本 憲 児	文 学 部	映像論
宇佐美 昭 次	理 工 学 部	化学
遠 藤 弘	文 学 部	言語・記号論
岡 崎 由 美	文 学 部	中国語 I
長 田 攻 一	文 学 部	余暇論
小野正 和	法 学 部	英語 II
角 山 元 保	教 育 学 部	仏語 I・II
北 村 実	文 学 部	社会意識論, 哲学の人間学 I・II
古 賀 勝次郎	社会科学部	経済学
近 藤 江 一	教 育 学 部	基礎数学
佐 藤 巖	教 育 学 部	独語 I・II
澤 村 灌	法 学 部	英語 II
新 保 昇 一	文 学 部	英語 I・II
千 葉 明 夫	理 工 学 部	物理学
外 木 典 夫	文 学 部	特論 II
富 田 正 利	文 学 部	心理検査法 I, 心理検査法 II, 人格心理学
中 村 采 女	理 工 学 部	独語
西 本 武 彦	文 学 部	認知理論
野 中 涼	文 学 部	英語 II
野 村 圭 介	商 学 部	仏語 I
速 川 治 郎	社会科学部	哲学

非常勤教員 (五十音順)

氏 名	担当科目
相 原 隆 夫	独語
青 木 清	バイオエシックス, 比較行動学
安 達 正 夫	救急医学 I, II
安 藤 喜 久 雄	人間関係論 I, 産業・職業社会学

安 中 隆 徳
五 三 健
今 橋 盛 勝
内 嶋 善兵衛
大 池 美智子
大 崎 博
近 江 源太郎
岡 山 茂
川 名 明 夫
金沢ジャニック
菊 地 弘
北 原 隆
工 藤 佳 久
久保木 茂 人
小 出 二 郎
児 玉 幹 夫
斉 藤 勇
坂 口 早 苗
佐久間 淳
澤 井 芳 江
スティーブン・
マーチン
杉 本 正 俊
高 橋 鷹 志
高 橋 行 徳
寺 尾 剛
中 条 一 雄
中 村 昌 子
野 池 恵 子
服 部 明 彦
濱 田 秀 伯
半 田 貴 士

宗教学
スポーツ方法論・実習（球技Ⅰ）バスケットボール
教育法，法学
環境論
音楽理論・実習
倫理学
環境論
仏語
寄附講座
仏語Ⅱ
文学
自然人類学
寄附講座
露語Ⅰ
英語Ⅰ・Ⅱ
社会福祉論Ⅰ
人間関係論Ⅱ，社会心理学
学校保健Ⅰ，学校保健Ⅱ
保健社会学
スペイン語Ⅰ
英語Ⅰ
独語
環境論
独語
中国語Ⅰ
スポーツ情報論
独語Ⅰ・Ⅱ
仏語Ⅰ・Ⅱ
環境論
精神医学Ⅰ・精神医学Ⅱ（ストレスと生体反応）
精神身体医学Ⅱ

樋口 純 明

ピーター・
カスタグナロ

ピーター・
ボラー

深川 長 郎

福 林 徹

フィリップ・
ヴァネ

保 志 宏

牧 幸 一

前 田 豊

松 本 芳 之

室 岡 博

矢 崎 正 夫

山 本 数 子

ロジャー・N・
ジェフリーズ

松 澤 大 樹

独語

英語 I

英語 I

スポーツ行政論

スポーツ医学 I・II

仏語 II

人類学 (自然)

独語 II

英語 I・II

組織心理学

英語 II

英語 II

スポーツ方法論・実習 I (ダンス), ダンス概論

英語 I

画像医学 I, II, 精神身体医学 I

建 物 ・ 号 館 案 内

100 号 館	8 階	研究室（一般教育・外国語・助手）
	7 階	研究室（スポーツ科学科）
	6 階	研究室（人間健康科学科） 人間総合研究センター所長室 実験室（人間健康科学科・人間総合研究センター） 会議室
	5 階	研究室（人間基礎科学科・スポーツ科学科・助手） 会議室 実験室（人間基礎科学科・人間健康科学科・スポーツ科学科） 学生実験室 面接室 観察室 暗室 測定機室
	4 階	学部事務所 学部長室 教務主任・服主任室 会議室 所沢図書館・事務室 保険室 教職員食堂 研究室（スポーツ科学科） 実験室（スポーツ科学科） 学生実習室
	3 階	演習室 埋蔵文化財展示室・整理室 学生ラウンジ 学生共同利用室 コピー室 学生食堂 売店 情科センター分室事務室 端末室 労務室・清掃室
	2 階	60人教室 350人教室 700人教室 演習室 視聴覚教室 LL教室
	1 階	60人教室 140人教室 200人教室 学生ラウンジ エレベータ
		守衛室

早稲田大学所沢構内案内図



